

平成22年度～25年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(A)課題番号 22242013)
「やさしい日本語を用いたユニバーサルコミュニケーション社会実現のための総合的研究」

「やさしい日本語」 研究の展開



目 次

巻頭言（尾崎明人）	(1)
「やさしい日本語」の理念と内容（庵 功雄）	(5)
「やさしい日本語」理念と普及～地域日本語教室を軸として～（岩田一成）	(13)
書き換えによる頻度差情報を用いた公文書基本語彙の序列化（森 篤嗣）	(19)
「やさしい日本語」の換言辞書構築のための検討（柰真奈見・山本和英）	(30)
技術者倫理教材作成の経験から（三上喜貴）	(38)
本年度の研究成果	(42)
研究代表者、研究分担者一覧	(43)

「やさしい日本語」と日本語教育

日本語教育学会会長

名古屋外国語大学教授 尾崎明人

1. 多言語社会日本

日本は多言語社会である。もともとそうであったが、この30年ほどの間に多言語化が顕著になってきた。2009年末の外国人登録者は約219万人で、戦後初めて前年を下回ったが、それでも長野県の総人口に匹敵する数である。少子化、長寿化、生産年齢人口の大幅な減少を考えると、外国人の受入れは今後も続き、日本の多言語状況はさらに進むものと考えられる。

2010年8月、関係府省の副大臣で構成される日系定住外国人施策推進会議が『日系定住外国人施策に関する基本指針』という政府文書を公表した。この文書には、「日系定住外国人が地域経済を支え、活力をもたらす存在として、これまでの我が国の経済発展に貢献してきたところである」との記述があり、「単に定住を認めるだけに留まらず、日系定住外国人を日本社会の一員としてしっかりと受け入れていくべきであり、そのための方策を考える必要がある」と明記されている。さらに、5つの基本指針を掲げた上で、2010年度内に政府の行動計画を策定するとしている。日系人の受入れに対する政府の基本姿勢を明確に示すこの文書は、日本の外国人政策の歴史上、画期的なものだと言えるだろう。

日系人に限らず、日本に定住する外国人を日本社会の一員として本当に受け入れるつもりならば、明確なビジョンのもとに包括的な政策を打ち出すべきである。その際には、多言語社会の言語問題、コミュニケーション問題に正面から取り組まねばならない。これは社会の多数派である日本人の責務であり、国の将来にかかわる重要な政策課題である。

2. 日本語社会の日本語格差

日本社会の共通言語は日本語である。したがって、日本語が分からなければ、大多数の在留外国人にとって安定した暮らしを得ることは難しい。このことは、2008年秋のリーマンショック以降、日本語の分からない外国人の再就職が大きな問題になっていることでも明らかである。日本語習得は定住外国人の多くにとって死活問題である。日本語教育の体制を早急に整備し、日本語が学べる環境を作り出すことは、外国人を日本社会の構成員として受け入れる以上、当然のことである。

しかし、第2言語を習得することは容易ではない。とりわけ日本語の書き言葉を習得するには多くの時間とエネルギーが必要である。したがって、いくら日本語教育の体制を整備し、国や自治体、企業や教育機関、NPOや日本語ボランティアなどが力を合わせても、一朝一夕に外国人が日本語を身につけるなどと期待するのは非現実的である。

ではどうするか。「日本語ができるようになるまで不自由は我慢してください。一生懸命日本語を教えてあげるから、あなたがたも頑張ってください」と言えればいいのか。そうではあるまい。社会にはさまざまな格差が存在するが、本人がどう頑張っても埋められない格差がある。そのような格差は、社会全体でその解消に努めるべきであり、外国人が抱える「日本語格差」はまさにそのような社会的格差の一つである。

したがって、日本語が不自由な外国人に対しては、日本語教育の体制と学習環境の整備に努めると同時に、日本語格差を少しでも解消するために、次の2点が重要である。

(1) 重要な情報は多言語で提供する体制を整備すること

この点に関しては、日系人の集住地域などを中心に、英語のみならず、ポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国朝鮮語などで情報提供が行われるようになってきている。しかし、定住外国人の第1言語はタガログ語、ベトナム語、タイ語など多岐にわたるので、すべての言語で情報提供を行うことは実際上きわめて困難である。

そこで重視すべきことは次の点である。

(2) 日本語の知識が限られていても理解できるように分かりやすい日本語を使うこと

これについても阪神淡路大震災の教訓から災害や緊急時の対応をはじめとして、在住外国人に分かりやすい日本語で情報を提供しようとする動きが見られる。この動きを推し進める言語政策が望まれるところである。それが、日本語社会の日本語格差を小さくする方策の一つである。

3. 日本語接触場面と外国人

母語話者同士のコミュニケーション場面を「母語場面」とよぶ。これに対して、コミュニケーションに非母語話者が参加している場面を「接触場面」とよぶ。日本語母語話者である日本人と非母語話者である中国人の会話場面は接触場面である。同様に、タイ人とフィリピン人が第2言語である日本語でコミュニケーションをしている場面も接触場面である。このような接触場面が日本の中で確実に増えている。

接触場面には、音声言語を用いた会話場面だけでなく、文字言語を用いたメールや手紙のやり取りなども含まれる。仕事のために日本語でメールをやりとりする外国人、仕事の引き継ぎのためにメモを読んだり書いたりする外国人が増えているが、これも接触場面のコミュニケーションである。

我々が日本語を使う場面は私的領域と公的領域に区分できる。家族や友人、隣人などとの日常的なやりとりは私的領域のコミュニケーションである。一方、職場での会議、客との商談、商取引のためのメールのやり取り、引き継ぎのメモや回覧板、役所からのお知らせなどを読むというのは、公的なコミュニケーション行動に分類できる。

定住外国人が社会の一員としての権利を主張し義務を果たすには、私的領域と公的領域で、音声言語と文字言語を使って日本語でコミュニケーションをする必要がある。さらに、新聞や雑誌、インターネット、テレビやラジオなど日本人向けの情報源からさまざまな情報を得ることも必要である。この場合には、外国人はあたかも母語場面の傍聴者、傍読者のような立場に立たされることになる。

接触場面の広がりを見ると、日常生活で最低限必要なサバイバル日本語を出発点として、読み書き能力も含めた日本語能力の獲得には長い時間がかかることになる。

4. 接触場面のコミュニケーションと日本人

日本語接触場面のコミュニケーションがうまくいくかどうかは、母語話者である日本人と非母語話者である外国人、双方のコミュニケーション能力で決まる。外国人の日本語能力が大きく関係することは言うまでもないが、外国人の発話意図を的確に読み取る、外国

人に分かるように日本語を調整する、コミュニケーション問題に適切に対処する、という日本人側のコミュニケーション能力も同様に大きく関係する。外国人がいくら日本語に堪能になってもそれでコミュニケーションが上手くいくという保障はない。コミュニケーションの成功は、双方の相手に対する態度とコミュニケーション能力の総和で決まるのである。

このように考えると、接触場面における日本人のコミュニケーションが問題になる。対面でのコミュニケーションであれば、その場その場で日本語を調整することができるし、接触場面の経験を積み重ねることで日本人も外国人とのコミュニケーションのコツを学んでいけるだろう。

問題は文字言語によるコミュニケーションである。外国人が理解しやすいメールやメモを書くにはどうすればいいか。これは個人間のコミュニケーションである。さらに、大きな問題がある。それは公的場面の日本語を読むという困難な問題である。お役所の広報などでは日本人向けの日本語が使われている。文書作成者は外国人が読むことなどは想定せずに文書を作成するのが普通であろう。このような文書を読む外国人にとって、それは公的な接触場面であるが、作成者には接触場面だという意識がないのである。この問題に日本人はどう対処すればいいのだろうか。「やさしい日本語」が一つの答えである。

5. 「やさしい日本語」と日本語教育

「やさしい日本語」とは、理解を助けるように配慮された、相手に「優しい」日本語という意味である。分かりやすいという意味では「易しい日本語」である。話し言葉であれ書き言葉であれ、接触場面で相手の外国人の日本語レベルを考慮した分かりやすい日本語を使うことが多言語社会の日本人に求められている。

公共性の高い文書では、外国人も読むことを考慮に入れて、読者に易しい文章を書くべきである。情報内容を削り落さずに、どこまで易しい日本語で書けるか。文字、表記、語彙、表現、構文を選択し、一貫性のある構成で明晰な文章を書く力が日本人に求められている。これはニュースやニュース解説についても同じである。

文章の難易度を客観的に測る言語的な物差しはある。しかし、一つの文章を読んでも、易しいと思う人と難しいと思う人がいることから分かるように文章の難易度は読み手によって異なるのである。義務教育を終えた日本人を想定して書かれた文章は、多くの外国人にとっては難しいだろう。非漢字圏の外国人にとっては漢字が障害になる。さらに、日本人なら常識だと考えられるような社会文化的背景知識が不足していれば、著者の意図を読み解くことは困難になる。

やさしい日本語を巡る上記のような問題について提案できることがある。それは、外国人にも読んでもらわねばならない公共性の高い文書を作成するときに参照できる文書作成ガイドラインを設定することと、そのガイドラインに到達することを目標とする日本語教育のカリキュラムと教材を開発することである。

文化審議会国語分科会の日本語教育小委員会では「生活者としての外国人」のための日本語教育について具体的な提案を行っている。このような方向に加えて、「やさしい日本語」で書かれた文章を読む能力、聞く能力を伸ばすための日本語教育についても議論を深めていくべきだろう。

6. 「やさしい日本語」と日本人

EPA にもとづいて来日した看護師・介護福祉士候補者が全国で仕事についている。そこでは「お年寄りの地元のことばが分かりにくい」という悩みの声が聞かれる。教科書の日本語を勉強してきた外国人にとってはまったく別の日本語を聞く思いなのであろう。日本人にとっても見知らぬ土地のことばを聞いて理解することは容易ではない。

外国人のコミュニケーション能力を伸ばそうと日本語教師が奮闘し、外国人学習者も大変な努力をして、日本語が上手になっても、それだけでコミュニケーションがうまくいくわけではない。外国人が接触場面で接する日本語は多様である。日本人のコミュニケーションが優しい日本語に変わらねば、外国人の悩みは解消されない。

相手に合わせて話す、書くということは当たり前のことのようにあるが、決してやさしいことではない。日本語教育の対象は、外国人だと長い間考えられてきたが、これからの日本語教育はやさしい日本語が使える日本語母語話者も教育の対象とするものによって変わっていくに違いない。

多言語社会日本の共通語である日本語は、母語話者、非母語話者を問わず、その使い手がよりよいものに変えていかねばならない言語である。「やさしい日本語」を日本人の間に普及すると同時に、「やさしい日本語」を一つの到達段階として設定する日本語教育を追求することが日本語教育の課題である。そして、それが国の言語政策の重要課題であることは言うまでもない。

「やさしい日本語」の理念と内容

一橋大学国際教育センター准教授 庵 功雄

1. はじめに

新来外国人（ニューカマー）が増えるにつれて、この人たちとの共生が重要なテーマになってきている。本稿では「やさしい日本語」という観点からこの問題について考える。

2. 「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」というのは「日本語の知識が不十分である外国人が不利益を被らないように調整された日本語」というように定義されるもので、これまでにいくつかの例がある。ここではこれまでの「やさしい日本語」に関する研究を簡単に見た後、本研究で言う「やさしい日本語」について述べることにする。

2-1. 簡約日本語

これは国立国語研究所の元所長である野本菊雄氏が中心となって研究されたもので（野元 1990 ほか）、研究の方向性としては誤っていなかったと考えられるが、機械的な言い換えを中心としてしまったため、失敗に終わった。この点について詳しくは岩田論文を参照されたい。

2-2. 災害時の日本語（減災EJ）

阪神淡路大震災の際に外国人（特に日本語も英語も不自由な外国人）が大きな被害を受けたことを教訓に、災害時の外国人に対する情報提供の重要性が自覚され、その方法が研究されている（佐藤 2004 ほか）。この研究で「やさしい日本語」という用語が用いられている。この研究を本研究では「減災EJ（Easy Japanese）」と呼ぶ。本研究と減災EJは共通の問題意識を持っているが、減災EJが災害場面に特化した研究であるのに対し、本研究は日常生活場面を主な研究対象としている点は異なる（cf. 庵・岩田・森 2011）。

3. 補償教育の対象としての「やさしい日本語」

新来外国人が増えるにつれ、その人たちの日本での生活を言語的にどのように保証するかが問題となってくる。その際、理想的なのは多言語化だが、現状ではその実現は難しい。実際、多言語化にはコストがかかるため、自治体などが情報を出す場合英語だけですまされることが多い。そして、岩田(2010)が考察している広島の場合のように、一部の情報は多言語化されていても、英語版しかない場合も多く、母語の違いで情報格差が生じている。

こうした現状において必要とされるのは「補償教育（compensatory education）」（山田 2002）の対象としての日本語である。山田(2002)によれば、補償教育とは「本来ならば[日本]社会を多言語化するべき」だが、現状ではそうでないという「不条理を日本側が詫び」、「そのかわり自己実現を可能にする一定以上の日本語能力が習得できる機会を「償い」として保障する」ということである。

こうした補償教育の対象としての日本語を本研究では「やさしい日本語」と呼ぶ。これ

は、(近い) 将来新来外国人に対する初期日本語教育の公的保障が実現した際にその対象として「やさしい日本語」が想定されることも視野に入れたものである。

4. 学校型日本語教育と地域型日本語教育

尾崎(2004)は日本語教育を学校型日本語教育と地域型日本語教育に分けている。学校型は契約関係の上に成り立っている。すなわち、教師は教授経験、専門知識などの点で一定の資格を満たす必要があり、学生は留学・就学ビザを持っている、授業料を払う、欠席をしないなどの条件を満たさなければならない。また、初級の授業は直接法による文法積み上げ式で集中的に行われることが多い。

これに対し、地域型は主にボランティアによって運営されており、学校型のような契約関係はなく、学習者もボランティア教授者も毎回出席するとは限らず、授業時間もあまり多くとれないといった性質がある。

4-1. 地域型における初級

上述のように、地域型日本語教育は学校型日本語教育とはかなり異なったものである。特に、かけられる時間の差は大きい。例えば、学校型の初級の到達レベルとされる日本語能力試験旧3級(現N4)は300時間の学習を目安としているが、これを地域型の標準である週1回2時間の活動でカバーするのは困難である。そういう実態に即して地域型における初級を考える必要がある。本稿では文法に限定して地域型の初級について考える。

4-2. 理解レベルと産出レベル

言語項目(文法、語彙)には、聞いてその意味がわかればいい理解レベルのものと、意味がわかりかつ発話できる必要がある産出レベルのものがある(庵2006)。なお、下位のレベルで理解レベルであったものが上位のレベルで産出レベルになることもあり得る。

こうした点から現行の初級シラバスを考えると、そこでは全ての項目が産出レベルと見なされていると考えられる。例えば、『みんなの日本語Ⅱ』第33課では命令形、禁止の表現を産出させる練習が行われているが、こうした形式を学習者が産出する必要はほとんどなく、これらの項目は扱うとしても理解レベルで十分であると考えられる(cf. 野田2008)。

4-3. Step1とStep2

以上のような観点を踏まえて、地域型における初級を考えるが、本研究ではこの初級を2つのレベル(Step1とStep2)に分けることを提案する。Step1とStep2はそれぞれ独立したものであり、Step1単独でもコミュニケーションができるように配慮する。また、Step1とStep2を総合したときに、その分量は地域型において適切であり、かつ、補償教育に対象とするのに十分なものであるように設計されている。

5. Step1の特徴

ここではStep1の特徴を概観する。Step1の文法項目は以下の通りである。

STEP1 文法項目

動詞文	…ます／ません …ました／ませんでした
名詞文	…です／じゃないです …でした／じゃなかったです
形容詞文	…です／くないです …かったです／くなかったです
<応答>	王さんは主婦ですか？ はい、そうです。 いいえ、違います。 昨日、会社に行きましたか？ はい(行きました)。 いいえ(行きませんでした)
助詞	～を ～の(所有格) ～φ(昨日φ洗濯をしました) ～に(時間、場所、行き先) [「住んでいます」はかたまりとして導入] ～で(場所、手段、範囲) [「歩いて」はかたまりとして導入] ～から／～まで(場所・時間) ～が(目的語の「が」) ～と(同伴者、並列助詞)～も ～は ～より ～のほうが ～か (疑問) ～ね (確認)
疑問詞	だれ、何、何〇 (何時、何年、何歳、何個、何人、何杯) 、どこ、いつ、どれ・どっち、どの、 どう、どうやって、どうしてですか？ [かたまりとして導入]
指示詞	(絵や写真を指さしながら)これは何ですか？ これ・それ・あれ／こっち・そっち・あっち／ここ・そこ・あそこ
その他	バナナを食べたいです(願望)、たぶん～です／～ます (推量) 、いちばん ～のとき、～ですから (理由)
語彙的な 項目	数字、助数詞 (個、人、杯) 、曜日、頻度副詞 (いつも、ときどきなど)

(表1) Step 1の文法項目

Step1の特徴として、次のことがあげられる。

(2) a. 活用がない

b. 全ての項目が産出レベル

まず、活用がないということで、「～てください、～ています」のようなテ形を含む表現、「～と思います」のような普通形を含む表現はこのレベルでは現れない。

このStep 1の文法項目を網羅した教材が『にほんごこれだけ！1』である。

6. Step 2の特徴

Step1が終了した学習者が次に学ぶのがStep2であり、その文法項目は次の通りである。

STEP2レベル文法項目	
産出レベル	
形態論	～て(テ形) ～た(タ形) 辞書形 ～ない(ナイ形)

文型	～は...ことです。～たり～たりします
ボイス	～ことができます ～く／～に／～ようになります
アスペクト	～ています (まだ) ～ていません ～たことがあります
モダリティ(認識)	～と思います ～かもしれません
モダリティ(対人)	～てください・～ないでください(依頼) ～てもいいですか(許可求め) ～たいんですが(願望、許可求め) ～ましょう(勧誘) ～た／ないほうがいいです(当為) ～ないといけません(義務)
複文・接続詞	～て(「図書館に行って、本を借ります。」) ～てから(継起) ～とき(時間) ～たら(条件) ～けど(逆接、前置き：普通形接続) ／～。 でも、～ので(理由)／～。だから、～ために／～ように(目的)
その他	～んです どうして...んですか? きれいな町です(形容詞の連体修飾)
理解レベル	
モダリティ(対人)	～てもいいです(許可) ～てはいけません(禁止) ～なさい(命令)
その他	昨日買った本(はこれです。)(動詞の連体修飾)

(表2) Step 2の文法項目

Step2の特徴は次の通りである。

(3) a. 活用が現れる。

b. 理解レベルの項目が現れるようになる。

活用が現れることにより、テ形、タ形、辞書形、ナイ形（及び、それを含む表現）が使えるようになる。これで、表現の幅が大きく広がる。

Step1, 2を合わせたものと現行の初級で扱われているものを比べると前者には次のようなものが含まれていない（これらが含まれていなくても問題がないことについて詳しくは庵(2009, 2011)を参照されたい）。

(4)a. 自動詞・他動詞

b. くれる

c. ～てあげる、～てもらう

d. 受身（直接受身、間接受身）

e. 使役

f. 敬語（尊敬語、謙讓語）

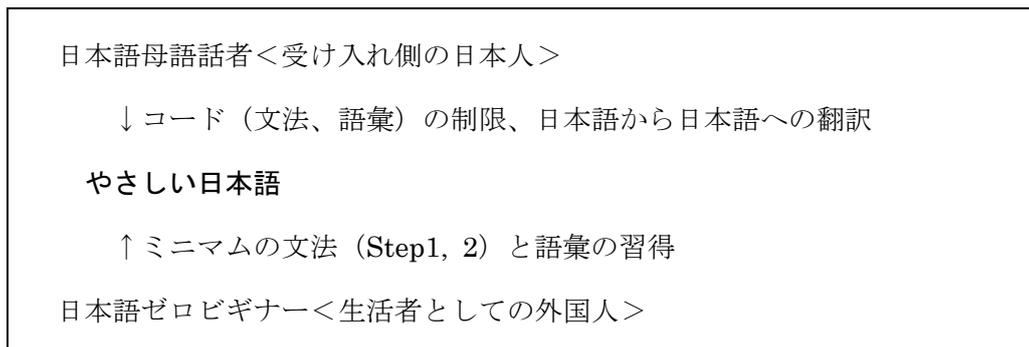
この Step2 を網羅した教材（理解レベルと産出レベルの違いも反映している）が『にほんごこれだけ！2』（2011年夏刊行予定）である。

このように、Step1, 2 は現行の学校型初級の文法シラバスを大幅に刈り込んだものとなっているが、これは地域型の初級として、さらには、補償教育の対象としても適切なものであると言える。

7. 「やさしい日本語」が目指す社会

ここでは「やさしい日本語」をその中心に据える本研究が目指す社会像について述べることにする。

われわれの立場においても、外国人に一定の日本語習得を求める（これは完全な多言語化が困難であることの代償である）。しかし、これまでともすれば日本人社会側が外国人側に一方的に日本語習得を求めてきたのを改め、日本人側にも「やさしい日本語」を用いて話したり書いたりすることを学ぶことを求める。そして、その結果、外国人と地域の日本人住民の間に「やさしい日本語」という共通言語ができると考える。この点を図示すると次のようになる。



（図1）「やさしい日本語」が目指す社会

この図で「コードの制限」の部分の話しことばにおいて実現したものが『にほんごこれだけ！』である¹。一方、書きことばについては、地方自治体などが発行している公文書（お知らせ）の書き換えを行っている²。

8. 公文書の書き換えの実際

ここでは、今年度収集した資料を、日本語教育の経験が豊富（10年以上）な日本語教師が書き換えたものをいくつか紹介する。

¹ このように述べたからといって、外国人は「やさしい日本語」だけで十分だと主張しているわけではない。「やさしい日本語」は補償教育の対象であり、全ての外国人に対して保証されるべきものであるが、それ以上のレベルに達したい外国人に対してはその手段を別途保証する必要がある。そのためにはStep1,2の上にStep G(grammar)といったものを設定して、教材を開発する必要がある。

² 今年度収集した資料を対象としたものではないが、公文書の書き換えにおける諸問題を扱ったものに、庵・岩田・筒井・森・松田(2010)、庵・岩田・森(2011)がある。

書き換えは、1) 逐語訳 2) 意識 3) 要約 の3つのレベルに分けて行われた。それぞれの基準は次の通りである。

逐語訳：内容・順番を変えずことばだけやさしくする。情報は増減させない。

意識：段落を丸ごと見渡して組み替える。情報を追加・削除してもよい。

要約：文書の伝達意図そのものとする。一文書を数段落にまとめてしまってもよい。

<書き換え例 1>

(原文) 日本の医療機関は、入院や検査の設備が整った大きな病院と、普段から身近なおつきあいをする個人医院や診療所に分かれます。

(書き換え例) 日本の病院には、入院や検査ができる大きい病院と、いつでも行くことができる小さい病院があります。

→基本的には Step1, 2 レベルの文法項目を使って書き換える。

<書き換え例 2>

(原文) 「非居住者」とは居住者以外の個人のことをいい、非居住者の場合は原則として所得の20%の税金がかかります。

(書き換え例) 「非居住者」は居住者ではない人です。非居住者はもらったお金の20%を税金で払います。

→公文書で用いられる専門用語と考えられるものは書き換えない。

<書き換え例 3>

(原文) 2 実施機関は、行政文書を閲覧する者が、当該行政文書を改ざんし、汚損し又は破損するおそれがあると認めるときは、当該行政文書の閲覧又は視聴の中止を命ずることができる。

(書き換え例) 2 市の文章を見る人が、その文章に別のことを書いたり、汚したり、破ったりするかもしれないときは、その人はその文章を見ることなどをやめるように言うことができます。

→漢語は基本的に和語に書き換える。

<書き換え例 4>

(原文) さて、この度あなた様が新築・増築されました家屋につきましては、来年度から地方税法に基づき固定資産税・都市計画税を課税させていただくこととなりますので、近日中に家屋調査をさせていただきたいと思っております。

(書き換え例) あなたは、今度家を新しくしたり大きくしたりしました。ですから、来年から家・場所の税金と町を作るための税金を払ってください。2、3日後に家を調べたいと思います。

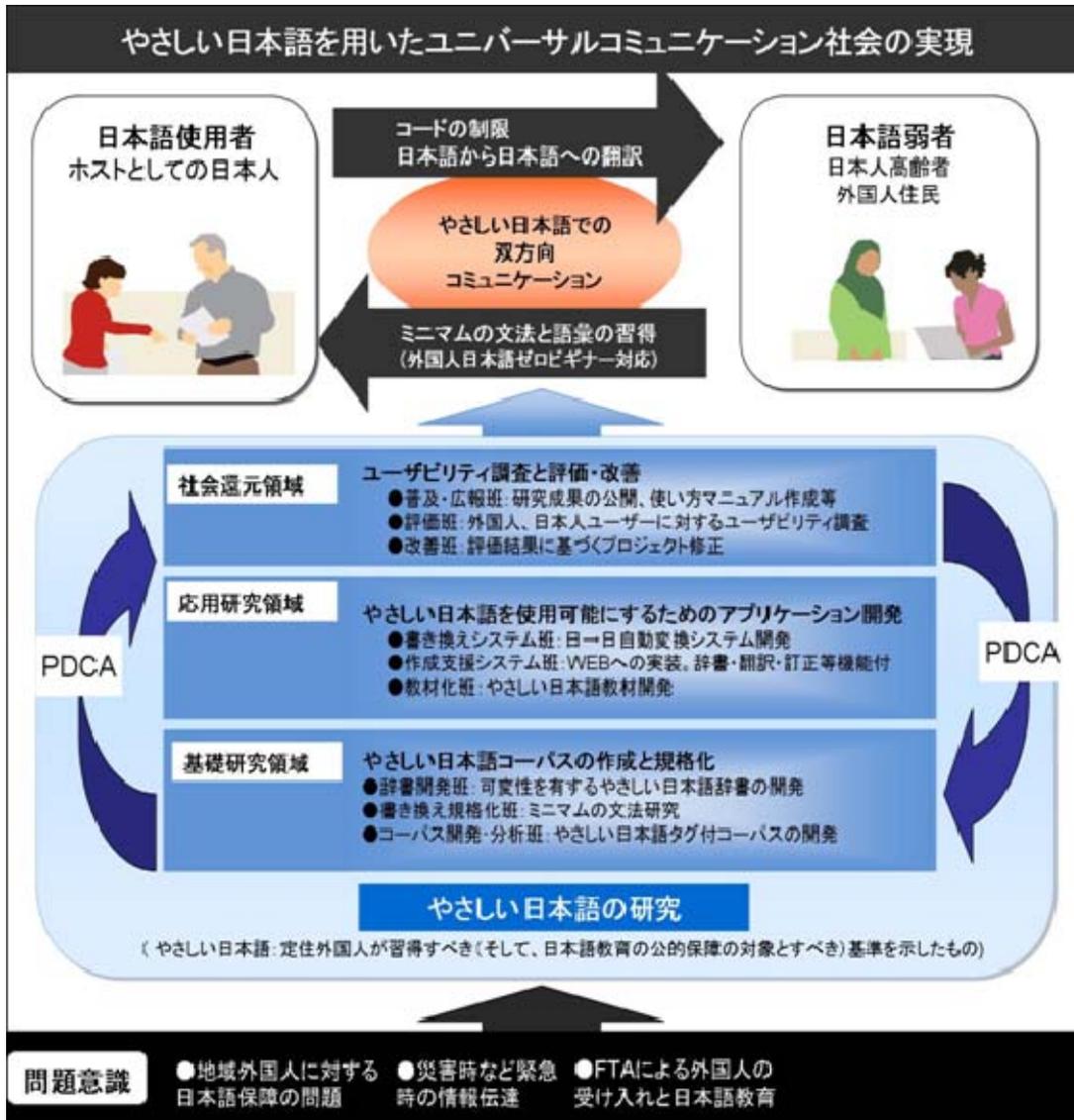
→不必要な文末表現は削除する。

9. まとめ

本稿では「やさしい日本語」について見てきた。「やさしい日本語」は文法的には Step1,

2 から構成される。「やさしい日本語」は補償教育の対象として考えられたものであると同時に、地域社会における日本人住民と外国人住民の共生のあり方のモデルとなることを目指したものである。

最後に、この科研プロジェクトの全体像を示しておく。



(図 2) 本研究の全体像

参考文献

庵 功雄(2001)『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク
 庵 功雄(2006)「教育文法の観点から見た日本語能力試験」土岐哲先生還暦記念論文集編集委員会編『日本語の教育から研究へ』くろしお出版
 庵 功雄(2009)「地域日本語教育と日本語教育文法—「やさしい日本語」という観点から—」『人文・自然研究』3、一橋大学
 庵 功雄(2011)「日本語教育文法からみた「やさしい日本語」の構想」『語学教育研究論叢』27、大東文化大学

- 庵 功雄・岩田一成・筒井千絵・森 篤嗣・松田真希子(2010)「「やさしい日本語」を用いたユニバーサルコミュニケーション実現のための予備的考察」『一橋大学国際教育センター紀要』創刊号（通巻13号）、一橋大学
- 庵 功雄・岩田一成・森 篤嗣(2011)「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え」『人文・自然研究』5、一橋大学
- 岩田一成(2010)「言語サービスにおける英語志向」『社会言語科学』13-1、社会言語科学会
- 尾崎明人(2004)「地域型日本語教育の方法論的試論」小山悟他編『言語と教育』くろしお出版
- 佐藤和之(2004)「災害時の言語表現を考える」『日本語学』23-8、明治書院
- 野田尚史(2008)「コミュニケーションのための日本語教材」
<http://www.soc.nii.ac.jp/nkg/themekenkyu/tabunka/4kai.pdf>
- 野本菊雄(1990)「簡約日本語」『文林』26、松蔭女子学院大学
- 山田 泉(2002)「第8章地域社会と日本語教育」細川英雄編『ことばと文化を結ぶ日本語教育』凡人社

「やさしい日本語」理念の普及 ～地域日本語教室を軸として～

広島市立大学国際学部講師 岩田 一成

1. はじめに

日本語になんらかの制約を加えることでコミュニケーションの伝達効率を高めようとする試みはこれまでいろいろ行われてきた。ここではこれまでの試みを紹介しながら、「ほんやくコンニャクプロジェクト（HKプロジェクト）」で我々が行おうとしている「やさしい日本語」理念の普及について述べる。なお、適宜英語における同様の議論も Plain English, Globish などを挙げつつ参照したい。

2. 言語に制約を加える試み

2-1. 専門用語の修正：「外来語」、「病院の言葉」の検討

「(カタカナばかりの説明について) 町内会の人たちは分かるのか」と怒った小泉首相のセリフはたびたび引用されている。2002年の春に開かれた経済財政諮問会議で、省庁側の説明にバックオフィス、アウトソーシングなどカタカナ言葉が続出したときのことである。こういった高度な専門用語をなんとかするべきだという発想は、外来語の言い換えという形で展開していった。国立国語研究所「外来語」委員会編（2006）では詳細な事前調査に基づいて外来語の言い換え提案を提示している。

この外来語に関する調査研究の過程で行った意識調査により明らかになったことは、「病院の言葉」の問題点である。調査対象の8割以上の回答に病院の言葉にはわかりにくいものがあるという回答をしていた。この結果を受けて国立国語研究所では「病院の言葉」に対処するための新たなプロジェクトが始まった。これら一連のプロセスや成果は、国立国語研究所「病院の言葉」委員会編（2009）にまとめられている。

実は Plain English も本質的には同じことがきっかけとなっている。Plain English の議論でたびたび引用されるのはアメリカのカーター大統領による 1978 年の大統領命令である。そこでは法律言葉である ‘legalese’ や官僚言葉である ‘officialese’ を使って一般市民を煙に巻くことが問題点として挙げられている。注目すべきは、このアメリカ版 Plain English の出発点となった Rudolf Flesch は、その基本的な発想を 1946 年に『How to write, speak, and think more effectively』に示しており、日本よりもずいぶん早くからこういった議論が出ていたことになる。

専門家による難解な日本語により情報弱者を作りだしてはいけないという発想は本プロジェクトも共有している。

2-2. 特定の場面における情報伝達：減災のための「やさしい日本語」（減災 E J）

「やさしい日本語」という名称からすれば本稿に先立つのが、災害時の外国人への情報提供の方法をやさしいものとするという目的から始まった「やさしい日本語」（以下、「減災 E J」と表記する）である（佐藤 2004, 2007）。情報伝達ツールとして英語の限界を指摘した上で、災害情報を「やさしい日本語」で伝えようとする取り組みである。

「減災 EJ」はその有効性についても検証されており（松田他 2000）、ニュースをやさしくすることで内容に関する質問の正答率が30%から90%に上がるという指摘をしている。そこではニュースという音声情報を使っているのに、ポーズ、スピード、繰り返しといった読み方に関する配慮も挙げられている。論文で提示されている例を以下に挙げておく（松田他 2000 : 149）。

(1) A <原文> けさ5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を震源とするマグニチュード7.2の直下型の大きな地震があり、神戸と洲本で震度6を記録するなど、近畿地方を中心に広い範囲で、強い揺れに見舞われました。

B <言い換え文> 今日、朝、5時46分ごろ、兵庫、大阪、などで、とても大きい、強い地震がありました。地震の中心は、兵庫県の淡路島の近くです。地震の強さは、神戸市、洲本市で、震度が6でした。

本プロジェクトも「減災 EJ」と共通の目的意識を持っていると言える。英語による情報伝達には限界があり（岩田 2010）、情報伝達の効率を上げるには日本語をやさしくすることが必要であると考えている。

2-3. 日本語教育を視野に入れた動き：簡約日本語

外国人が学習する際の便宜を考え、日本語のコード（文法、語彙）を制限するという最初の試みのひとつは野元菊雄氏による「簡約日本語」である（野元 1990, 野元・川又・義本 1991）。これは英語の Globish と共通する点があり、言語に制約を加えることで学習の負担軽減と非母語話者によるコミュニケーションの促進を狙っている。ちなみに Globish は単語を 1500 に制限しているが、簡約日本語は 2000 としている。外国人への日本語教育を視野に入れている点においてこの試みは本稿と共通する部分がある。ただ、その応用が逐語訳的書き換えの域を出なかったことなどで厳しい批判にさらされることになってしまった。当時朝日新聞（1988.2.26 夕刊）に掲載された簡約日本語の例である。

(2) <書き換え前> まず北風が強く吹き始めた。しかし北風が強く吹けば吹くほど、旅人はマントにくるまるのだった。遂（つい）に北風は、彼からマントを脱がせるのをあきらめた。

→<簡約日本語> まず北の風が強く吹き始めました。しかし北の風が強く吹きますと吹きますほど、旅行をします人は、上に着ますものを強く体につけました。とうとう北の風は彼から上に着ますものを脱ぎさせますことをやめませんとなりませんでした。

「やさしい日本語」を考える際、「変な日本語を使う変な人、日本語を乱す人」といった風評が立たない」（御園生・前田 2007:37）ものを目指す必要がある。そのためには、逐語訳の発想ではなく大胆な意識も必要になるであろう。またプレゼンテーションの際、文学作品を扱うことは避けるべきであろう。

批判的な文献が多い簡約日本語であるが、野元・川又・義本（1991）を見ると、コーパスなどの言語資料に基づいた初級シラバスの作成が行われていたことを示している。例えば格助詞の‘へ’は使用頻度が低いため導入を後に回し、‘に’だけ指導すればいいなどという議論は野田編（2005）に代表される日本語教育文法の議論を先取りして行っていたことになる。日本語教育も包含する形で「やさしい日本語」理念の普及を目指す点において、本プロジェクトも同じ立場である。

2-4 理念の普及について過去から学ぶべきこと

これまでの動きを概観してきて、こういった言語に制約を加えるような試みは、プレゼンテーションが重要であることがわかる。その際、問題の内在性、具体例、働きかける対象などが重要になる。ここまでの議論をまとめると、以下の表になる。

(3) これまでの流れ

	問題の内在性	具体例	働きかける対象
外来語書き換え	役人言葉が一般市民に理解できない	バックオフィス、アウトソーシング…	行政
減災EJ	震災時、外国人が情報弱者になる	災害情報ニュース	主に行政やマスメディア
簡約日本語	外国人に日本語を習得しやすくしたい	北風と太陽	日本人全体（日本語教育関係者）

3. HKプロジェクトにおける「やさしい日本語」とは

本プロジェクトで行っている「やさしい日本語」は2.節でみたこれまでの動きとすべて関連するものであるが、大きく分けると以下の2本柱になる。以後、()内に示されている呼称を用い、それぞれ公文書編、地域日本語教室編と呼ぶ。

- ① 公文書における日本語をやさしくする（公文書編）
- ② 地域日本語教室における日本語教育を対象とし、外国人参加者、日本人参加者双方に対して「やさしい日本語」を普及する（地域日本語教室編）

執筆者の担当は②の地域日本語教室編であり、以後の議論はその日本語教育について述べたい。地域日本語教室とは地域型日本語教育（尾崎 2004）を行う場で、多くは各地の公民館などでボランティアによって担われている教室のことである。地域日本語教室編では、働きかける対象を、地域日本語教室に参加する日本人参加者に絞って行っている。具体的には対話型（おしゃべり型）活動を普及させるためにワークショップを行っている。それによって、外国人参加者が「やさしい日本語」を習得し、それと同時に日本人参加者も「やさしい日本語」を話せるようになるという二つの成果を期待している。

3-1. 外国人参加者の「やさしい日本語」について

問題の内在性として、現在多くの地域日本語教室では、構造シラバスによる学校型日本語教育（尾崎 2004）が行われていることが挙げられる。地域型は多くの制約があり、1週間に一回開講で、外国人参加者は毎週来るとは限らない。対応する日本人側はボランティアで、こちらも必ず毎週来られるとは限らない。こういった様々な制約を考慮すると、学校型日本語教育で用いられている構造シラバスを300時間かけて積み上げていくというシステムは機能しない（尾崎 2004）。言い換えると、多くの外国人参加者にとっては、初級教科書ですら最後まで終わることができないのが地域型日本語教育の抱える問題点である。

具体例として「と、ば、たら、なら」を例にとると、学校型では同じような機能を持つ文法が、初級だけで4種類も勉強しなければならない。使用制限が少なく優先順位の高いものだけ教えるなら「たら」だけで十分なはずである。また活用を定着させるために様々

な文法を盛り沢山¹で導入するが、実用性のあやしいものもある。例えば、て形の定着を目指して「てはいけません」が必ず導入されるが、何かの禁止を伝えたいときに本当にこの形式を使うのかは疑問である。

こういった問題意識から、庵（2009）は一機能一形式による初級シラバスのスリム化を行っている。そこで示されている文法一覧はステップ1とステップ2からなり、大雑把に言ってしまうと動詞の活用を一切排除したステップ1と必要度の高い最低限の活用とそれを用いる文型を集めたものがステップ2ということになる。これは言い換えると、現行の初級シラバスの中から必要度の高いもの、優先度の高いものを抜き出して、短期間でマスターしてもらうということを目指している²。

こういった研究の成果を踏まえて出版されたのが『にほんごこれだけ！1』という初級向けの日本語教材である。地域日本語教室の制約の中で使えるように、トピックシラバスによるおしゃべり型活動を提案している。各課が一回完結になっているため、毎週来なければ文法が積み上がらない教室型日本語教育よりも地域型に適合していると言える。

3-2. 日本人参加者の「やさしい日本語」について

「やさしい日本語」とは外国人に日本語学習を押し付けるだけでは成立しえない。日本人側の意識が変わらない限り円滑なコミュニケーションは望めない。ここでは本節冒頭で述べた対話型（おしゃべり型）活動というのがキーワードになってくる。つまり、地域日本語教室でおしゃべりをすることによって、日本人参加者に自分の日本語を振り返るきっかけとしてほしいと考えている。

日本人側に日本語の修正を求めるというのは簡単なことではない。簡約日本語でも日本人側の日本語の修正は不要としている。Globish を解説している Nerriere and Hon (2009) では、英語コミュニケーションにおいて、ネイティブ同士によるものは全体の4%でしかないというデータから、ネイティブ側もノンネイティブと交流できる技術がないと不利になるという論の展開をしている³。日本語はそれほど多くの非母語話者が用いている言語ではないため、同じ動機付けを行うことは難しい。ただし、地域日本語教室に参加する日本人を対象であればある程度効果があると考えられる。彼ら、彼女らは外国人と交流したくて教室に参加しているのである。また、過去にうまく交流できなかった体験などを持っていることがある。このままの日本語をこのままのスピードで話しては相手と交流できないということが、問題の内在性ということになる。

各地のワークショップでは具体例として、やさしくない日本語の例（例えば「書類が到着次第、即御返却願います」など）を示しながら考えさせたり、「‘コンビニ’ という単語

¹現行の初級は量が多すぎるということは、小林（2009）などですでに指摘されている。

²庵（2009）は一機能一形式をキーワードに文法項目の抜き出しを行っているが、山内（2009）によるOPIデータの分析でも同様の指摘があり、動詞の活用を使わなくても中級レベルは取れると指摘した上で、「初級文法は丁寧形の文法」と述べている（山内 2009：47）。

³最近では『とりあえず日本語で もしも…あなたが外国人と「日本語で話す」としたら』（荒川洋平 2010）という本が出版されるなど、外国人とのコミュニケーションの機会が以前よりは増えてきているのは確かである。

で詰まったらどのように言い換えますか？」といった質問形式で考えさせたりしている。そこから、外国人との日本語コミュニケーションを客観的に見直すきっかけを作っている。また、「ゆっくりはっきり発音してみる」「簡単な言葉に言い換えてみる」「短い文で言い直す」といった具体的な留意点を確認する作業も行っている。

4. まとめ

ここまでの議論を2-4の表に合わせるなら、以下のようなプレゼンテーションでHKプロジェクトの理念の普及を行っている。

(4) HKプロジェクト (地域日本語教室編)

	問題の内在性	具体例	働きかける対象
3-1.	初級内容が多すぎて、初級が終わらない	機能が重なる文法項目、使用しにくい文法項目	日本人参加者 (外国人参加者)
3-2.	外国人とコミュニケーションが取れない	難しい言い回しなど	日本人参加者

本稿の最後に参考資料として、2010年度本プロジェクトメンバーがお伺いした各地のワークショップの一覧を添付している。

参考文献

- 荒川洋平 (2010) 『とりあえず日本語で もしも…あなたが外国人と「日本語で話す」としたら』スリーエーネットワーク
- 庵 功雄(2009)「地域日本語教育と日本語教育文法—「やさしい日本語」という観点から—」『人文・自然』3 pp.126-141 一橋大学
- 岩田一成 (2010)「言語サービスにおける英語志向—「生活のための日本語：全国調査」結果と広島事例から—」『社会言語科学』13-1 社会言語科学会 pp.81-94
- 尾崎明人 (2004)「地域型日本語教育の方法論的試論」『言語と教育』くろしお出版
- 小林ミナ (2009)「一過去から現在へ—文法研究と文法教育」小林ミナ・日比谷潤子編『日本語教育の過去・現在・未来 5文法』pp.18-37 凡人社
- 国立国語研究所「外来語」委員会編 (2006)『わかりやすく伝える外来語言い換え手引き』ぎょうせい
- 国立国語研究所「病院の言葉」委員会編 (2009)『病院の言葉をわかりやすく 工夫の提案』勁草書房
- 松田陽子(1999)「外国人のための災害時の日本語」『月刊言語』28-8 pp.42-51
- 松田陽子・前田理佳子・佐藤和之「災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論」『日本語科学』7 pp.145-159
- 野田尚史編 (2005)『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 野元菊雄・川又瑠璃子・義本真帆(1991)「簡約日本語の創成」『日本語学』10-4, pp.94-105
- 佐藤和之(2004)「災害時の言語表現を考える」『日本語学』23-8, pp.34-45
- 佐藤和之(2007)「被災地の72時間—外国人への災害情報を「やさしい日本語」で伝える理由—」『「やさしい日本語」が外国人の命を救う』pp.9-27, 「やさしい日本語」研究会
- 山内博之 (2009)『プロフィেশンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房

山田 泉(2002)「第8章 地域社会と日本語教育」細川英雄編『ことばと文化を結ぶ日本語教育』pp.118-135 凡人社

F.lesch, R.(1946) *How to Write, Speak, & Think More Effectively* .Harper & Row

Nerrire, J.P. and D. Hon(2009) *Globish the World Over*: International Globish Institute

参考資料

本年度プロジェクトメンバーによる対話型（おしゃべり型）活動普及のためのワークショップ

2010年5月29日 東広島市 東広島市教育文化振興事業団／2010年7月11日 佐賀市 佐賀県国際交流協会／2010年7月17日 広島市 広島国際センター／2010年8月7日 名古屋市 日本語研修サロン（凡人社）／2010年8月21日 大阪市 日本語研修サロン（凡人社）／2010年8月22日 呉市 ひまわり21 /2010年9月18日 浜松市 はままつにほんごNPO /2010年9月19日 行田市 行田にほんご教室 /2010年9月24日 西東京市 西東京市多文化共生センター /2010年10月1日 西東京市 西東京市多文化共生センター／2010年10月4日 所沢市 所沢インターナショナルファミリー／2010年10月8日 西東京市 西東京市多文化共生センター／2010年10月15日 西東京市 西東京市多文化共生センター／2010年10月16日 広島市 南観音日本語ボランティアグループ／2010年10月23日 京都市 京都国際文化協会／2010年10月23日 輪島市 輪島市国際交流協会／2010年10月30日 金沢市 石川県国際交流協会／2010年11月20日 盛岡市 日本語学習支援ネットワーク会議 in 盛岡／2010年11月27日 神戸市 神戸国際コミュニティセンター／2010年12月1日 豊中市 国際交流の会とよなか（TIFA）／2011年1月10日 静岡市 静岡県日本語ボランティアセミナー2011／2011年1月12日 倉吉市 鳥取県国際交流財団／2011年1月12日 町田市 町田国際交流センター／2011年1月15日 横浜市 横浜市港北国際交流ラウンジ／2011年1月21日 摂津市 摂津市国際交流協会／2011年1月23日 東広島市 財団法人東広島市教育文化振興事業団／2011年1月29日 岡山市 岡山県国際交流協会／2011年2月8日 渋谷区 IEO 国際交流団体

書き換えによる頻度差情報を用いた公的文書基本語彙の序列化

国立国語研究所准教授 森 篤嗣

1. 「やさしい日本語」と語彙

「やさしい日本語」について考えるとき、避けて通ることができないのが語彙である。誰にとって「やさしい」のか、どうすれば「やさしい」のか、といった根幹的な問題は、文法もさることながら、それ以上にどのような語彙を使用するかということに尽きる。

しかし、どのような語彙を使えばよいのか、という問いに答えることは簡単なことではない。それでもその一つの答えとして、真っ先に思い浮かぶのが語彙制限である。先行研究を簡単に概観してみると、土居(1933)の1,000語が最も少なく、次に水野(2006)など減災EJが想定する日本語能力試験3級の1,500語(国際交流基金・日本国際教育支援協会(2002))、さらに野元(1993)の簡約日本語や国立国語研究所(1984)の「基本語二千」の2,000語と続く。少し離れて、日本語能力試験2級と国立国語研究所(1984)の「基本語六千」の6,000語となる。

このように、どこで区切って語彙表を作成するかは、学習者のレベルに対応づけたり、対象となる文書の被覆率などによって考えたりすることが可能である¹。語彙制限ないしは語彙表は「やさしい日本語」を考えるためには、必要なものであると言ってよいだろう。

しかしながら、語彙制限や語彙表を考える前に、そのデメリットについて考えておく必要がある。一つは「不自然な日本語」になる可能性があること、もう一つは「思考統制」になる可能性があることである。前者の「不自然な日本語」については、野元(1993)の簡約日本語への批判がそのまま当てはまる。固定化した語彙表に縛られると「いくらなんでもそれはないだろう」という表現になりがちで、「不自然な日本語」糾弾派の格好的となる。後者の「思考統制」については、やや大げさな表現かもしれない。しかし、語彙は思考の幅や奥行きを規定するといつて過言ではない。外来語や専門用語など、むやみに難しい語彙を連発すると閉口するが、それでも専門的な話題には、専門的な語彙が不可欠である。語彙制限をするということは、「あなたは難しい話はしなくていいですよ」という「枠」を設けることになりかねない。

こうした「やさしい日本語」における語彙の二つの課題を念頭に置きつつ、本発表では演繹的な語彙制限ではなく、帰納的な語彙の分類・序列化を模索する。

2. 公的文書基本語彙

日本における日常生活において、日本語ができるかできないかで、大きな不利益を被る可能性があるものの一つとして、日常生活で目にする公的文書(市役所など自治体による文書)や自治体HPがある。この問題を解決するには、「日本人側がやさしく書く」か、「外

¹ 庵ほか2010, 松田ほか2010を参照のこと。

国人側が読めるようになる」かのいずれかしかない²。

ここでは、「日本人側がやさしく書く」を目指し、われわれが本科研で 2010 年度に収集してきた公的文書と、その書き換えコーパス（以降は「2010 年度版書き換えコーパス」する）を用い、日常生活で目にする公的文書（以下、公的文書とする）に含まれる語彙の現状と、日本語教育経験者がやさしく書き換えた場合の語彙について述べる。

では、公的文書基本語彙の前に、そもそも基本語彙とは何か。その定義について林(1971:2)では以下のように示している。

- (1) 基礎語彙 意味の論理的分析によって求められた半人工的な語彙
- (2) 基本語彙 特定目的のための「〇〇基本語彙」
- (3) 基準語彙 標準的社会人としての生活に必要な語彙
- (4) 基調語彙 特定作品の基調を作るのに働く語彙
- (5) 基幹語彙 ある語集団の基幹部として存在する語彙

いずれも興味深いですが、ここでは基礎語彙と基本語彙の違いについてのみ考える。基礎語彙については、C. K. Ogden が 1932 年に発表した Basic English (850 語) と、Basic English の影響を受けた土居 (1933) の基礎日本語 (1,000 語) が有名である³。ただし、林(1971) が指摘するように、Ogden の Basic English も土居の基礎日本語も、「実用目的の文章において」、前者は「外国人のため」、後者は「母国語の一般大衆のため」という特定の目的があることを考えると、基礎語彙というより基本語彙であるとも言える。そう考えると、基礎語彙をどう定義づけるかは極めて難題である。

一方、基本語彙については「特定目的のため」という定義でよいだろう。教育のためであれば、教育基本語彙ということになる。今回のターゲットは公的文書であるため、公的文書基本語彙と呼ぶこととする。

3. 2010 年度版書き換えコーパスの概要

外国人集住都市会議に参加している自治体を中心に文書の提供をお願いしたところ、群馬県太田市、群馬県大泉町、静岡県湖西市、静岡県菊川市、三重県四日市市、三重県鈴鹿市、三重県亀山市、三重県伊賀市、滋賀県甲賀市、岡山県総社市、愛知県小牧市の 11 の自治体と、自治体国際化協会が 2010 年度版書き換えコーパスのために原文を提供してくれた。2010 年度版書き換えコーパスの原文の文字数は 1,108,750 字で、当初予定の 120 万字にわずかに届かなかったが、十分な収集がおこなえた。

² しかし、現状では「日本人側がやさしく書く」という対応は十全ではない。例えば、国立国語研究所(2004)による広報誌編集担当者への調査によると、「広報誌の編集で高齢の読者に配慮していること」で「特に配慮はしていない」は 3.9%だが、「広報誌の編集で外国人の読者に配慮していること」で「特に配慮はしていない」は 78.9%である。

³ 土居は 10 年後の 1943 年に基礎語彙を 100 語増やした 1,100 語を公開している。

この原文について、「やさしい日本語」へ書き換えをしてくれる日本語教師を募ったところ多数の応募があり、そのうち 34 名の日本語教師に書き換え作業を依頼することとした。性別の内訳は男性 2 名、女性 32 名。平均日本語教師経験年数は約 14 年であった。

書き換えについては、逐語訳、意識、要約の 3 レベルを設定した。逐語訳は「語・句の言い換え・ストーリー構造保持」、意識は「段落内で再構成」、要約は「複段落レベルで入れ替え・文章全体の伝達意図」を目指した書き換えである。本発表では、この 3 レベルのうち、逐語訳を用いて、原文との語彙の頻度差情報を手がかりに分析を進める。

4. 2010 年度版書き換えコーパスにおける原文と逐語訳の基本情報

2010 年度版書き換えコーパスの原文文字数が 1,108,750 字であったことは既に述べたとおりである。逐語訳では 1,056,396 字となり、若干の減少をみた。さらに原文と逐語訳を形態素解析器 MeCab0.98 と、形態素解析用辞書 UniDic1.3.12 を用いて、形態素解析をおこなった。「総単語数」は何の処理もしない UniDic における短単位⁴の数、「記号等抜き単語数」は「記号」「補助記号」「名詞-数詞」「空白セル」を削除した数、「実質語数」は「形状詞」、「形容詞」、「接続詞」、「代名詞」、「動詞」、「副詞」、「名詞（固有名詞除く）」、「連体詞」の数である。これらの情報を、表 1 のように 2010 年度版書き換えコーパスの基本情報をまとめた。

表 1 2010 年度版書き換えコーパスにおける原文と逐語訳の基本情報

	総文字数	総単語数	記号等抜き 単語数	実質語数	実質語 異なり語数
原文	1,108,750	666,628	488,904	280,832	11,720
逐語訳	1,056,396	739,676	556,377	304,809	8,560

表 1 を見ると、総文字数では原文がわずかに上回るものの、総単語数、記号等抜き単語数、実質語数では逐語訳の方が上回る。これは、逐語訳では短い語が選択されてはいるものの「わかりやすい説明」のために、むしろ単語数は増加していることを示唆している。

一方で注目すべきは、実質語異なり語数である。総単語数、記号等抜き単語数、実質語数では逐語訳の方が上回っているにもかかわらず、実質語異なり語数では逐語訳の語数は原文の語数を大きく下回っている。これは、語彙制限をあらかじめかけたわけでもないにもかかわらず、「やさしく書き換えよう」という意識が帰納的に語彙制限に結びついたことを示唆している。

⁴ 短単位とは UniDic で採用されている国立国語研究所で規定した単位である。UniDic1.3.12 ユーザーズマニュアルによると「短単位は、原則として、現代語で意味を持つ最小の単位（最小単位）2 個を 1 回結合したものである。たとえば、「母親」「食べ歩く」「音声」「無口」などが該当する」とされている。厳密には、言語学や日本語学における単語という概念を異なるところもあるが、本発表では短単位をひとまず単語とみなすこととする。

このことを裏付けるために、原文及び逐語訳における実質語被覆率を 80%水準と 90%水準の両方で調べ、その結果を表 2 に示した⁵。

表 2 2010 年度版書き換えコーパスにおける原文と逐語訳の実質語被覆率

	実質語数	実質語 異なり語数	累積頻度 80% 超えの単語順位	累積頻度 90% 超えの単語順位
原文	280,832	11,720	1,270	2,603
逐語訳	304,809	8,560	631	1,368

言うまでもないことであるが、実質語異なり語数の少ない逐語訳の方が少数の語で累積頻度（被覆率）80%や 90%に達することは当然である。しかしながら、異なり語数では原文から逐語訳で約 73%程度の減少であったのが、累積頻度（被覆率）では、80%、90%共におよそ 1/2 程度に抑えられるということは、「やさしい日本語」における語彙選定にとって、極めて重要な示唆を与える結果であると言えよう。

このように、本発表では、経験十分な日本語教師が外国人のために「やさしく書き換えよう」とした意識が、逐語訳をするにあたって、帰納的にどのような語彙制限に結びついたかを分析する。そのことによって、演繹的な語彙制限ではなく、まず「やさしく書き換えよう」という意識ありきの帰納的な語彙制限のあり方が模索できるだろう。先に「枠」を決めてしまうのではなく、複数の日本語教師による経験的直観を基に公的文書基本語彙、もしくは日本語に不可欠な基礎語彙を導くことができれば、それは「やさしい日本語」はもちろん、教育研究にとっても語彙研究にとっても、革命的な研究と言える。

5. 2010 年度版書き換えコーパスにおける頻度増減と分布

本節では、2010 年度版書き換えコーパスにおける原文と逐語訳の頻度増減とその分布について述べる。2010 年度版書き換えコーパスでは、庵(2009)で示されたステップ 2 までを目安に文法制限をおこなったが、語彙については語彙表を示すなどの制限はおこなわず、下記のように示した⁶。

書き換えを読む対象者ですが、ステップ 1、2 の文法から想定してください。ただし、原文の公的文書を読めないことに不利益がある外国人が対象であるため、留学生や就学生だけでなく、広く日本で生活する外国人全般（主婦、工場労働者、自営業など）を想定するようにお願いします。語彙の難易度についても、ステップ 1、2 の文法から想定する対象者を基準に書き換えてください。

⁵ 実質語被覆率とは、原文及び逐語訳の実質語異なり語数のうち、上位何語までの累積頻度で 80%ないし 90%に達するかについて調べた数値である。

⁶ ステップ 1,2 の文法については、紙幅の都合によりここには示さない。庵(2009)を参考にされたい。

つまり、語彙については34名の日本語教師が「やさしく書き換えよう」という意識のもとにおこなった結果が反映されていると言える。実質語において、原文で存在したにも関わらず、逐語訳で頻度が0になったのは、3,579語に及ぶ。逆に原文に存在せず、逐語訳で追加されたのは419語に過ぎない。ここで原文から逐語訳で大きくその数を減らした語について表3に、逆に原文から逐語訳でその数を大きく増やした語について表4にまとめた⁷。

表3 実質語において原文から逐語訳での頻度が減少した語

	原文	頻度	逐語訳	頻度		原文	頻度	逐語訳	頻度
抛る	11位	1,692	191位	290	問い合わせ	25位	1,050	853位	216
又	7位	2,252	37位	1,029	方	19位	1,290	109位	470
場合	8位	2,174	46位	998	実施	34位	822	955位	40
及び	20位	1,185	952位	40	対象	36位	813	334位	166
行う	24位	1,059	371位	147	機関	29位	888	210位	264

表4 実質語において原文から逐語訳での頻度が増加した語

	原文	頻度	逐語訳	頻度		原文	頻度	逐語訳	頻度
事	5位	2,584	2位	8,157	仕事	314位	167	16位	1,862
人	43位	731	4位	5,300	為	22位	1,102	10位	2,685
時	15位	1,442	5位	4,598	作る	380位	137	20位	1,720
居る	3位	3,249	3位	5,992	出来る	13位	1,594	9位	3,131
金	214位	231	12位	2,318	所	184位	262	18位	1,766

表3については公的文書基本語彙から外すことができる語の集団、表4については公的文書基本語彙、さらには日本語の基礎語彙として重要な語の集団ということになるだろう。

特に表3の「実施」については、減少率が95.1%（原文822→逐語訳40）と突出している。同様に、原文で500回以上の頻度を持ち、減少率の高い語は「於く（おいて）」の98.7%（原文604→逐語訳8）、「及び」の96.6%（原文1,185→逐語訳40）、「関する」の93.7%（原文618→逐語訳39）、「避難」の91.5%（原文567→逐語訳48）などが続く。これらの語は、日本語教師による書き換えを平準化した結果から、帰納的に「やさしい日本語」にふさわしくないという判断がされた語であるが、だからといって、ただちに「やさしい日本語」から除外すべきだという結論になるわけではないことに留意すべきである⁸。

⁷ 表3及び表4は、単純に頻度数の増減の多寡により上位10位をまとめたものである。本来の趣旨から言えば、減少も増加も、単純な増減ではなく減少率や増加率で見ると、率をとると、原文で1や2といった少頻度の語が上位を占めることになるため、表3、4では単純な増減数を基準とした。

⁸ 例えば、大きく順位を上げた「金」は、「税金」「年金」「料金」「金額」など代替語との書き換えが進んだ結果と想定されるが、このうち実際に逐語訳で使用が増加しているのは「税金（原文68→逐語訳426）」

さて、表 3 及び表 4 では、頻度差の多寡により上位 10 位を示したが、ここで頻度差の全体の分布についても示してみる。図 1 は原文の 50 語、図 2 は原文の 1,000 語を取り上げ、散布図に示したものである。ただし、頻度の突出した語があると図が小さくなり見にくくなるため、図 1 については原文 1 位の「為る (する) (原文 14,144→逐語訳 14,320)」, 図 2 については原文上位 10 の語を削除して示している。

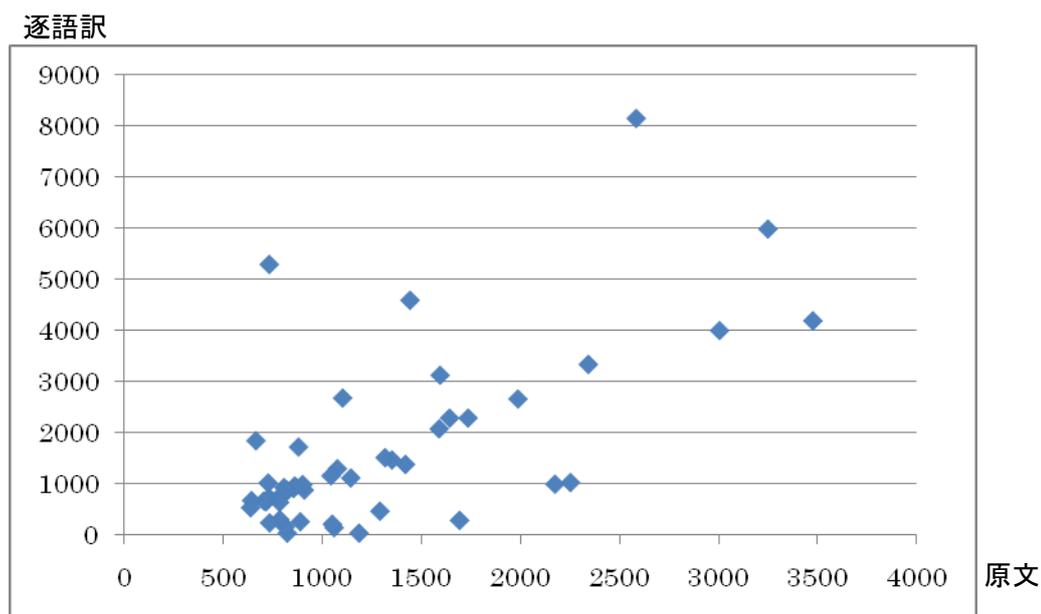


図 1 原文と逐語訳における語の頻度分布 (原文上位 50 語)

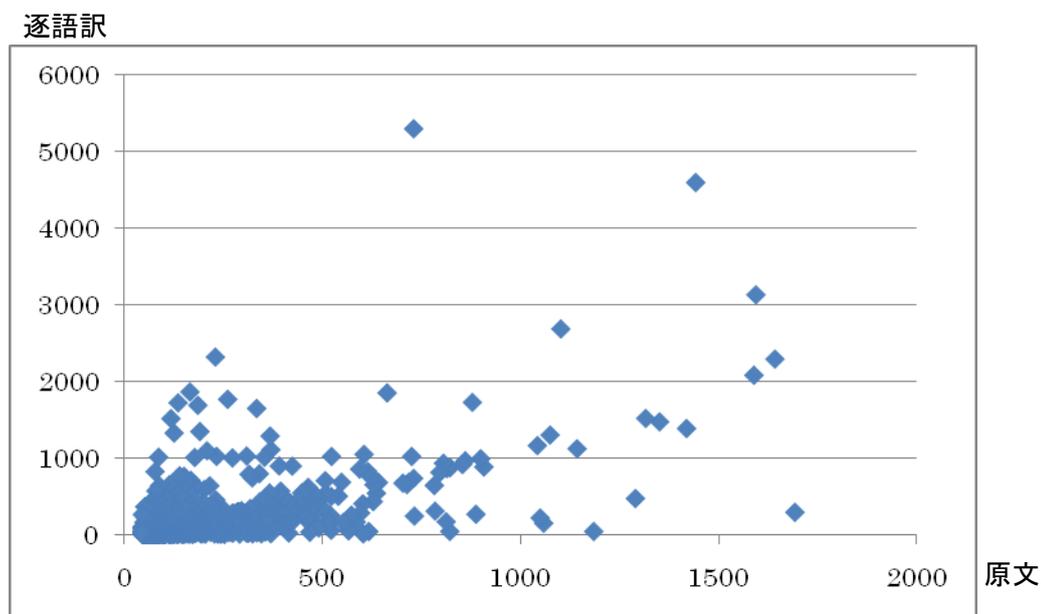


図 2 原文と逐語訳における語の頻度分布 (原文上位 1,000 語)

ぐらいであり、これは「金」における 2,000 以上の増加のわずか 1/4 をカバーしているに過ぎない。

逐語訳を示す縦軸と、原文を示す横軸の目盛り単位が異なるため、見にくいことは否めないが、図 2 を見ると、原文では頻度 500 の中にとどまり、横軸に伸びる語が多いのに対し、逐語訳では頻度 800 ぐらいまでに固まりがあり、縦軸への伸びは抑えられている。原文の高頻度語が、逐語訳では別の語に置き換えられたり、使用が抑えられたりする傾向が読み取れると言えよう。

6. 原文頻度と逐語訳頻度を指標としたクラスタ分析

前節までに、頻度差上位と下位の語集団、また 50 語ないし 1,000 語の頻度分布についてみてきた。本節では、原文頻度と逐語訳頻度の 2 指標を用いて、平方ユークリッド距離の Ward 法によるクラスタ分析による語彙の分類をおこなう。

6.1 頻度差上位 50 語におけるクラスタ分析

原文頻度と逐語訳頻度の 2 指標を用いたクラスタ分析をおこない、デンドログラムを検討するために、まずは頻度差上位 50 語を分析対象とする。図 3 は頻度差上位 50 語を平方ユークリッド距離の Ward 法によるクラスタ分析にかけた結果を示したデンドログラムを略図にまとめ直したものである⁹。

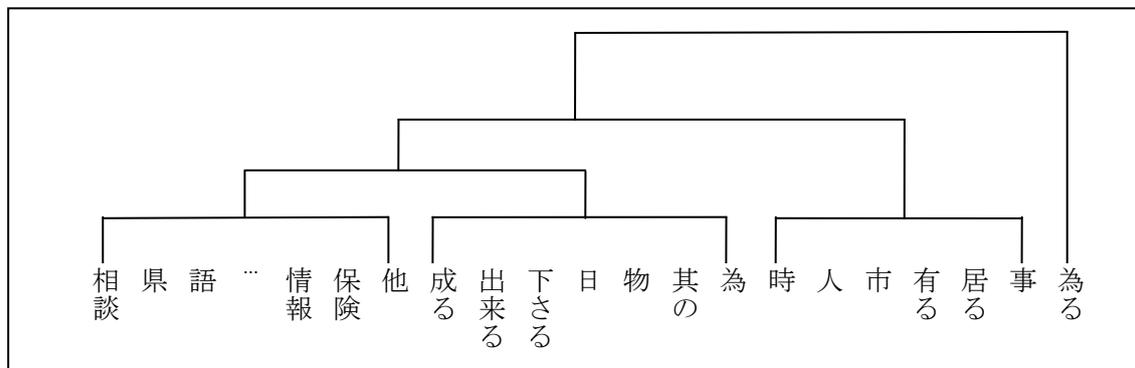


図 3 頻度差上位 50 語のデンドログラムの略図

一番右の「為る（する）」は原文頻度も逐語訳頻度も飛び抜けているため、単独で第 1 クラスタを形成している。「事」から「時」までが第 2 クラスタ、「為」から「成る」までが第 3 クラスタ、「他」から「相談」までが第 4 クラスタである。第 4 クラスタは 50 語中 36 語と数が多いため、図 3 では省略して示している。

図 3 を見るとわかるように、第 1 クラスタから第 3 クラスタまでは、原文より逐語訳で頻度が増加した 5 節の表 4 の日本語基礎語彙とも呼べるグループに対応している。つまり、原文より逐語訳で頻度が減少した語、つまり 5 節の表 3 にあたる「言い換えられた語」で

⁹ クラスタ分析には、SPSS17.0 の「分類-階層クラスタ」を用いた。

ある公的文書基本語彙として重要な語彙は、「相談」「情報」「保険」など第4クラスタに集中していると言える。

6.2 頻度差上位 50 語の第 4 クラスタ 36 語の再分類

そこで、頻度差上位 50 語の第 1 クラスタから第 3 クラスタ 14 語を除いた、第 4 クラスタ 36 語のみを改めて平方ユークリッド距離の Ward 法によるクラスタ分析にかけた。その結果を示すデンドログラムを検討したところ、やはり 4 つのクラスタに分けて解釈することが適当と考えられた。今回はデンドログラムを示さず、36 語について SPSS17.0「分類-階層クラスタ」の統計量コマンドにより、「単一の解」を 4 に設定した結果を表 5 に示す。

表 5 頻度差上位 50 語の第 4 クラスタ 36 語の再分類

第 1 クラスタ	第 2 クラスタ	第 3 クラスタ	第 4 クラスタ
又, 場合	抛る, 方, 及び, 行う, 問い合わせ, 機関, 実施, 対象, 事業, 保護	就く, 必要, 町, 情報, 他, 保険, 様, 子供	設備, 電話, 健康, 会, 相談, 県, 受ける, 語, 活動, センター, 此の (この), 月, 地域, 税, 外国, 登録

表 5 を見てみると、第 1 クラスタが、公的文書のよく見られる接続詞であり、かつ一般的な日本語文書でもよく用いられる接続詞であるのに対し、第 2 クラスタから第 4 クラスタは公的文書基本語彙といってよい実質語が集まっている。特に第 4 クラスタは公的文書に特有の語が多いと言えよう。第 2 クラスタと第 3 クラスタは、第 4 クラスタに比べると、公的文書にもよく見られるとも言えるし、日本語基礎語彙としても必要性の高い語とも言える。

その意味では、表 5 は全体に公的文書基本語彙と性格を残しつつ、第 1 クラスタから第 4 クラスタに移るにつれ、より公的文書基本語彙としての特徴を色濃く反映する語集団を形成していると言える。

6.3 頻度差上位 1,000 語のクラスタ分析と第 3・第 4 クラスタの再分類

頻度差上位 50 語を検討したことによって、1 回目の分析も 2 回目の分析も 4 つのクラスタに分けて解釈することが適当であることが掴めた。頻度差上位 50 語では、公的文書基本語彙の全体的な性格を把握できないため、同様の分析を頻度差上位 1,000 語についておこなってみたい。

ただし、1,000 語のデンドログラムを解釈することは困難であるため、1 回目、2 回目共に 4 つの単一解を求めるクラスタ分析をおこない、その結果を示すこととする。言うまでもなく、50 語と 1,000 語による分析で、同一の傾向が見られる保証はなく、あくまで暫定

的な分析である。

表 6 頻度差上位 1,000 語のクラスタ分析 (1 回目)

第 1 クラスタ	第 2 クラスタ	第 3 クラスタ	第 4 クラスタ
為る (する)	市, 居る, 有る, 事, 時, 人	下さる, 又, 場合, 成る, 日, 物, 出来る, 其の, 就く, 必要, 町, 情報, 為, 他, 保険, 設備, 電話, 様, 健康, 会, 相談, 県, 受ける, 語, 活動, センター, 此の, 月, 地域, 税, 子供, 外国, 市民, 生活, 申し込み, 学校, 無い, 塵, 保育, 言う, 連絡, 関係, 前, 場所, 出す, 持つ, 来る, 行く, 書類, 事故, 見る, 知る, 所, 良い, 金, 水, 貰う, 使う, 家, 仕事, 作る, 入る, 書く, 決める	残り 929 語

表 6 の 1 回目の分析を見てみると, 第 1 クラスタと第 2 クラスタは, 第 2 クラスタの「市」を除いては, 日本語基礎語彙とも言える語である。第 3 クラスタについては, 「成る」「出来る」「其の」「他」「無い」など, 日本語基礎語彙といってもいい語が相当に混じっている。一方で第 4 クラスタはあまりに量が多すぎて, 示すことが出来ないが, 公的文書基本語彙と呼べる語が多数見られる。

そこで, 第 3 クラスタを, やはり 4 つの単一解で暫定的に解釈を試みた。その結果を, 表 7 に示す。

表 7 頻度差上位 1,000 語の第 3 クラスタ 64 語の再分類 (2 回目)

第 1 クラスタ	第 2 クラスタ	第 3 クラスタ	第 4 クラスタ
下さる, 成る, 日, 物, 出来る, 其の, 為	又, 場合, 就く, 必要, 町, 情報, 他, 保険	設備, 電話, 健康, 会, 相談, 県, 受ける, 語, 活動, センター, 此の, 月, 地域, 税, 外国, 市民, 生活, 申し込み, 学校, 無い, 塵, 保育, 言う, 連絡, 関係, 前, 場所, 出す, 持つ, 来る, 書類, 事故, 見る, 知る, 良い, 水, 貰う, 家, 入る, 書く, 決める	様, 子供, 行く, 所, 金, 使う, 仕事, 作る

表 7 でも第 1 クラスタは, 日本語基礎語彙寄り, 第 2 クラスタは混在型で, 第 3 クラスタは公的文書基本語彙の色合いが強い。ただし, 第 3 クラスタでも「受ける」「言う」「出す」「持つ」「来る」「見る」「入る」「決める」など, 動詞については公的文書基本語彙とい

うよりも、日本語基礎語彙と言ってよい語が多く、実質語全体を分析するのではなく、公的文書基本語彙では、名詞だけを取り出す方が有効な分類が出来ることが示唆された。また、表7の第4クラスタについては、第3クラスタと同様に動詞は公的文書基本語彙の性格が強くない。ただ、第4クラスタの語数が少ないということは、再分類分析の一先ずの区切りであるとも言えよう。

また、少しさかのぼって表6の頻度差上位1,000語の第4クラスタ939語については、再分類すると、第1クラスタが2語、第2クラスタが8語、第3クラスタが112語、第4クラスタが807語と、まだ圧倒的に第4クラスタに偏る。また、この再分類第4クラスタ807語を再々分類しても、また第4クラスタに625語が残った。最終クラスタである第4クラスタに「雑多な語」が残り続けるということは、4つの単一解を求めるクラスタ分析の妥当性が疑われるため、また別のアプローチを考える必要があるだろう。

7. まとめ

本発表では、2010年度版書き換えコーパスを用いて、原文と逐語訳の頻度差情報を手がかりに、帰納的な日本語基礎語彙及び公的文書基本語彙の分類と序列化を試みた。現時点ではまだ模索的な段階であり、必ずしも分析がうまくいったとは言えないが、経験十分な日本語教師による書き換えという主観的基準を、統計的に標準化することによって帰納的な語彙の分類・序列化するという試みの可能性は示せたと考える。

冒頭にも述べたとおり、「やさしい日本語」への挑戦には、語彙の問題は避けて通れない。日本語教材を基にした旧日本語能力試験語彙表は、どうしても「教材を基に試験のための語彙表を作ると、試験のための語彙表が教材に反映される」という循環論を免れ得ない。また、BCCWJ（「現代日本語書き言葉均衡コーパス」）に代表されるような日本語母語話者による大規模コーパスを基にした語彙表では、頻度という単一の指標で「言い換えられる範囲」を規定するのは困難である。

その意味で、本研究における書き換えコーパスは、上記の既存データの限界を超えて、日本語基礎語彙や公的文書基本語彙に関する新たな研究と、その実用性に大きな可能性を与える意義あるデータと言えるだろう。

引用文献

- 庵功雄(2009)「地域日本語教育と日本語教育文法」『人文・自然』3, 一橋大学
- 庵功雄・岩田一成・筒井千絵・森篤嗣・松田真希子(2010)「「やさしい日本語」を用いたユニバーサルコミュニケーション実現のための予備的考察」『一橋大学国際教育センター紀要』創刊号, 一橋大学, pp.31-46
- 庵功雄・岩田一成・森篤嗣(2011)「「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え—多文化共生と日本語教育文法の接点を求めて—」『人文・自然研究』5, 一橋大学, pp.115-139
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会(2002)『日本語能力試験出題基準〔改訂版〕』凡人社

- 国立国語研究所(1984)『日本語教育のための基本語彙調査』秀英出版
- 国立国語研究所(2004)『行政情報を分かりやすく伝える工夫に関する意識調査(自治体調査)』国立国語研究所研究プロジェクト「日本語の現在」意識調査グループ
- 土居光知(1933)『基礎日本語』六星館
- 土居光知(1943)『日本語の姿』改造社
- 野元菊雄(1993)「簡約日本語語彙の意味分野」『日本語学』12-5, pp.40-48, 明治書院
- 林四郎(1971)「語彙調査と基本語彙」『国立国語研究所報告 39 電子計算機による国語研究 III』pp.1-35, 秀英出版
- 松田真希子・児玉茂昭・竹元勇太・石坂達也・森篤嗣・川村よし子・山本和英(2010)「コーパスの異なりと単語親密度を活用した日本語共通基礎語彙の抽出」『言語処理学会第16回年次大会予稿集』pp.579-582, 言語処理学会
- 水野義道(2006)「災害時のための外国人向け「やさしい日本語」」『月刊言語』35-7, pp.54-59, 大修館書店
- Ogden, C. K. (1932) *The ABC of Basic English*. London: Kegan Paul. [高田力訳 1936『ベーシックのABC』研究社]

付記

本研究は平成22年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(A)課題番号22242013)「やさしい日本語を用いたユニバーサルコミュニケーション社会実現のための総合的研究」(研究代表者:庵功雄)の助成を受けたものである。2010年度版書き換えコーパスに、公的文書を提供して下さった11自治体と、自治体国際化協会に記して感謝申し上げたい。

また、本研究では京都大学情報学研究科-日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所共同研究ユニットプロジェクトによる形態素解析器MeCab0.98と、国立国語研究所ほかによる形態素解析用辞書UniDic1.3.12を使用させていただいた。記して感謝申し上げたい。

やさしい日本語の換言辞書構築のための検討

長岡技術科学大学電気系 柰 真奈見

長岡技術科学大学電気系 山本 和英

1. はじめに

現在、日本に在住する外国人は 200 万人を超え、その中でも日常生活に必要な日本語能力を持たない外国人は数十万人に及ぶ。現状では、外国人のために情報は多言語で表記される傾向にある。しかし、世界にある多くの言語ごとに資料を作成するためには、時間や金銭面で提供側の負担が大きいので、多言語化は行き届いていない。以上のことから、全ての外国人に対する情報提供の支援策として、多言語化は最善とは言えない。

こうした外国人のために、必要最低限の日本語を提示する「やさしい日本語」の研究が必要とされる。ここでの難しいとは、最低限の文法と語彙を習得した日本語初学者の外国人が理解できないこと、やさしいとは日本語初学者でも理解できることである。日本語初学者を対象としている理由は、「やさしい日本語」が日常生活に必要な日本語能力を持たない外国人に最低限の文法と語彙を習得してもらった後に言い換えた文書を読むことを想定しているからである。

我々は「やさしい日本語」研究のうち、機械処理を担当としている。我々、機械処理担当の目的は「やさしい日本語」への自動換言である。これは、公的文書のあるシステムに入力することにより、自動的に「やさしい日本語」へ換言されるシステムである。これを一般に普及することにより、日本語初学者が日本で生活するための支援ができると考える。

我々は目的達成のため、後述する関連研究により公的文書を用いた「やさしい日本語」のコーパスを用いた換言辞書の作成が有効であると考えた。本研究では、日本語初学者でも読むことのできる文書への換言のため、人手により換言辞書を作成した。換言辞書の評価実験は日本語初学者である留学生を対象として行った。この実験は小規模なものだが、換言辞書の有効性を示した。

2. 関連研究

関連研究として、災害時のための「やさしい日本語」¹がある。これは、外国人が学習する機会が少ない災害時特有の表現を理解しやすくするために文構造の規則や換言対を作成した研究である。

以下に災害時特有の表現を、「やさしい日本語」へ換言した例を示す。

例 1)	a.火の元を確認する。 b.火を消す。
------	------------------------

例 1 の a は災害時に使用される一般的な指示である。しかし、この言語表現は災害時特有であるため、学習範囲外となってしまうことが多い。このことが原因で、災害時の危機的状況下においても、理解することができない恐れがある。これを b のように換言するこ

とで、必要最低限な日本語のみを学んだ外国人でも指示を理解することができる。よってこの研究では特殊な状況下における言語表現と「やさしい日本語」の文構造の規則や換言対が作成された。この結果、外国人に対する日本語の理解に有効であると考えられる。

松田ら²は、統計的機械翻訳を用いて公的文書の日本語を「やさしい日本語」へ換言する研究を行っている。テスト文 200 文について換言実験を行い、翻訳結果と正解データの一致度を BLEU 値を用いて評価した結果、20%と低くとどまっている。原文と難しい日本語から「やさしい日本語」に訳した逐語訳、そして機械翻訳による換言の 3 種類の文を手で①比較的良質、②解読不能・翻訳誤り、③変化せずの 3 段階に評価したところ、①比較的良質な換言フレーズは 7.5%と少なかった。そのうちのほとんどが見出しのような短い句であった。これは、コーパスの形式や質、量が機械翻訳に適していないことが原因としてあげられている。質の問題では、「①」、「●」、「TEL」、「→」等の記号等がノイズとなり、翻訳誤りが起きている例が多くあげられている。他にも、コーパスは人手でつくられたので誤字・脱字、表現順序の入れ替わり等も含まれており、これらが翻訳誤りの原因と考えられる。

以上のことから本研究では、自動で処理が難しい翻訳誤りやノイズの除去、多くの換言対を得るために人手で換言辞書を作成する。これによって記号や人為的な誤字・脱字、表現順序の入れ替わり等を省くことができ、換言の精度が上昇すると考える。

3. 使用するコーパス

本研究では、2名の日本語教師が公的文書の日本語を逐語訳、意識、要約の3段階の「やさしい日本語」に訳したものをコーパスとした。

公的文書は日本語初学者が学習する文に比べ理解が困難であり、特有な表現も含むため、「やさしい日本語」へ換言する必要がある。

以下に「やさしい日本語」へ換言した例を示す。

- | | |
|------|---------|
| 例 2) | a. 予防接種 |
| | b. 予防注射 |

「予防接種」は重要な情報だが、日本語の学習内容として一般的ではないため、理解できない外国人が多い。しかし、「接種」を一般的な語彙である「注射」に換言することによって、意味を理解できる可能性が高くなる。

このように、公的文書に含まれる特有の文または単語を「やさしい日本語」に換言したコーパスが作成された。その際、一定の文法基準³と「日本語能力試験 2 級レベル」の語彙に制限した。

本研究では「やさしい日本語」の3段階の訳である逐語訳、意識、要約を以下のように定義する。

逐語訳：日本語文の「難しい」表現を「やさしい」表現に、忠実に訳したもの。
意 訳：文意等を損なわないように可能な限り「やさしい日本語」に書き換えたもの。
要 約：可能な限り文を簡約化したもの。

「難しい」、「やさしい」の基準は日本語教師の主観である。以下にそれぞれの訳の具体的を示す。

例 3)

原 文：ニュース等で報道されておりますように、世界的に新型(豚)インフルエンザの流行が危惧されています。

逐語訳：ニュースなどにもあるように、世界中で新型インフルエンザの流行が心配されています。

意 訳：ニュースでもありますが、世界中で新型インフルエンザが増えています。

要 約：世界中で新型インフルエンザが増えています。

このコーパスは、日本語教師の直感を引き出すことを目的として作成したため、多くの基準や制限を設けるとこれを阻害する可能性がある。よって、「やさしい日本語」の研究では、文法の制限は最低限の基準のみが定められた。文法基準は、例えば「～は…です」「たぶん～です/ます」「～たほうがいいです」等の基本的な文法が使用できる。語彙の制限において、日本語能力試験 2 級レベルとは 6000 語程度である。

筒井ら⁴の研究により、通知等の理解に役立つ言語表現は公的文書内では頻出する言葉であり、学習する必要のある言語表現と考えられたため訳さないことにした。以下にそれら言語表現の例を示す。

例 4) 手続き, 登録, 申請, 機関, 場合, 証明, 緊急, 書類, 地域, 年度, 保護者までに, について, ~先 (問合せ先, 振込先など), とは

コーパスは 3700 文の原文とそれに対応した 3 段階の訳で構成される。翻訳では多くの翻訳対が必要であると考えられることから比較すると、本研究で使用したコーパスの量はとても少ない。しかし文構造が類似する言語同士では少ない換言対でも統計的機械翻訳の枠組みによる換言は可能と考える。

4. 換言辞書の作成

本研究では、松田ら²と同様に「やさしい日本語」の原文と逐語訳に着目する。換言辞書は原文と逐語訳の対を比較し、相違部分を人手で抽出することで作成した。

以下に原文と逐語訳から抽出した換言対の例を示す。

例 5) 原 文：今年度より「保健調査票」が変更になります。
逐語訳：今年から「保健調査票」が変わります。
→ 換言対： 今年度 ⇒ 今年
 より ⇒ から
 変更になり ⇒ 変わり

換言対を増やすため、同一の換言箇所であっても、有効と判断した場合は複数の表現対に対して抽出した。以下にその例を示す。

例 6) 原 文：保護者の方
逐語訳：家族の人
→ 換言対： 保護者の方 ⇒ 家族の人
 保護者 ⇒ 家族

作業の結果、換言辞書として、2500 対の換言対を作成した。以下に内容の一例を示す。

○単語の換言
接種 ⇒ 注射
○複合名詞の分割
任意接種 ⇒ 任意の注射
○年号を西暦に換言
平成 21 年 ⇒ 2009 年

- 余分な情報の省略
等、を対象、各
- 省略された部分の補完
(月) ⇒ (月曜日)
- 丁寧語・尊敬語・謙譲語の一部削除
ご理解 ⇒ 理解
たまわりました ⇒ いただいて
- 補助動詞の削除
お読みいただき ⇒ 読んで
- カッコ内の説明の削除・選択・付与
新型(豚)インフルエンザ ⇒ 新型インフルエンザ
低学年(3年生まで) ⇒ 3年生まで
学年積立金 ⇒ 学年積立金(学校のお金)
- その他、定型文や補完されているもの
助成措置が講じられております ⇒ 少し安くなります
が流れるたびに ⇒ を見ると
惨状が思い出され ⇒ を思い出して
皆様におかれましては ⇒ 皆さんは
臨時休業 ⇒ 学校は休み

換言対における原文の形態素に着目すると約半数が名詞であって、複合名詞を名詞+助詞+名詞等の分割した形に換言するものが多かった。また、名詞以外の約半数は動詞であって、そのほとんどが敬語に関するものであることがわかった。

5. 評価実験

作成した換言辞書が日本語初学者に有効であるかを評価するために小規模の実験を行った。公的文書特有の単語を用いて 20 文の評価データを作成した。これを換言辞書により人手で換言し、元の文と換言後の文のどちらが「やさしい」かについて人手で評価した。以下に元の文と換言後の文の例を示す。

本研究は留学生や外国人労働者等を対象にしているため、「やさしい」の判断は留学生 2 名が行った。留学生に元の文と換言後の文を提示し、①元の文の方がやさしく感じる、②換言後の方がやさしく感じる、③どちらも同程度の難易度を感じる、④どちらも難しいという 4 種類で評価してもらった。

例 7)

- a.元の文：平成 22 年 8 月 16 日（月）～20 日（金）に市立病院にて予防接種を行います。
換言後の文：2010 年 8 月 16 日（月曜日）～20 日（金曜日）に市立病院で予防注射を行います。
- b.元の文：ご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。
換言後の文：理解して協力をお願いします。
- c.元の文：緊急時のために、かかりつけ医の連絡を。
換言後の文：緊急の時のために、いつも行く病院の電話をしてください。

評価実験は日本語歴が 7 年と 4 年である 2 名のマレーシアからの留学生を被験者として行った。評価実験の結果、被験者が換言後の文をやさしくなったと判断した文は、評価用データ 20 文のうち平均 15.5 文であった。この結果から、日本語初学者に公的文書を用いた「やさしい日本語」の換言辞書は有効であるといえる。

しかし、評価者のうち 1 名の評価は②換言後の方がやさしく感じると判断した文が 11 文に対し、①元の文の方がやさしく感じると判断した文が 8 文と多かった。

6. 考察

本研究で作成した換言辞書の動詞のほとんどが敬語に関するものであった。このことから、「れる・られる」や謙譲語・尊敬語・丁寧語が頻出することが公的文書の特徴の 1 つであると考えられる。これらを日本語初学者は理解できないため、彼らは情報を手に入れることができないと考えられる。また、半数を占める名詞の換言には複合名詞を名詞+助詞+名詞等の分割した形に換言するものが多かった。以下にその例を示す。

- 例 8) a.複合名詞：予定人数
換言の後：予定の人数
- b.複合名詞：必要書類
換言の後：必要な書類
- c.複合名詞：地区住民
換言の後：地区に住んでいる人

複合名詞が多いことは漢字圏以外の外国人が意味を理解できない原因と考えられる。複合名詞は区切る場所を提示することで、意味を理解しやすくなる。しかし、複合名詞を全て換言するわけではなく、例 2 に示したように「予防接種」は「予防注射」となり、「予防の注射」とは換言しないという場合もあった。「予防の注射」は一般的ではなく、不自然さを感じるためである。このように、全ての複合名詞を換言するわけではないということが、「やさしい日本語」において日本語教師の直感を引き出している部分と言える。

実験結果において、①元の文の方がやさしく感じると判断した文が多い被験者がいた。この原因は被験者の日本滞在歴が 5 年と長いため、経験により公的文書特有の表現を理解

できるが、換言後の文は一般的に使用されないので、理解しづらかったのだと考える。

換言しても読めない語彙については、例4で示した学習する必要がある言語表現であると考えられ、換言しなかった。そのため、学習していない留学生は読むことができなかった。このことから、現時点で実際に換言システムを作成する際は、これらの表現を注釈等で説明する必要がある。

本実験では被験者を留学生としたが「やさしい日本語」の対象は留学生だけでなく、外国人労働者も含まれる。しかし、外国人労働者は留学生と生活環境が異なる。留学生は主に日本語を学び、話すことを目的に日本に滞在しているが、外国人労働者は日本で働くために滞在しているので、一般的に日本語を学ぶことは目的に含まれていない。そのため、彼らの言語知識は働くために必要最低限な日本語に偏っていると考えられる。そういった外国人に「やさしい日本語」を習得してもらい、評価実験を行うことで換言辞書の有効性がさらに高まる。このような問題を解決するためにも「やさしい日本語」学習の普及が求められる。

現コーパスの逐語訳では、表現順序が入れ替わる、表現の削除や補完が行われるといった問題があった。以下にその例を示す。

例9	原文： <u>万が一現地で</u> インフルエンザが発症した・・・ 逐語訳： <u>旅行のとき</u> 、もしインフルエンザが出た…
----	---

例9の下線部を見ると、意味としては「万が一」が「もし」、「現地で」が「旅行のとき」へ換言されていると考えられる。しかし、これらは表現順序が変わっており、また、場所の情報である「現地で」が補完され、状況の情報である「旅行のとき」へ換言されている。これらの対を用いて機械的に換言を行うと、表現順序が変わったまま登録した語の内、1つの単語のみを換言に求められた場合、対応できない可能性が高い。また、補完は前後の文章から推測することが必要なので他の文章においてそのまま利用できることは稀である。これらのことから、表現順序の入れ替わりや補完は、原文を機械的に逐語訳に変換する際に問題となると考える。

また、本研究で使用したコーパスは規模が小さいため、ある程度の換言は可能だが被覆率は低い。

そこで複数の日本語教師により、さらに大規模なコーパスが作成されている。新コーパスでは例9のようにより逐語性を高く、すなわち表現順序を維持して過不足のない文とする予定である。コーパスの質の向上が換言精度の向上に、量の増加がより多くの文の換言につながると考える。

7. おわりに

日本語初学者のために公的文書を「やさしい日本語」に自動的に換言する研究を進めている。本研究では「やさしい日本語」コーパスの逐語訳から人手で換言辞書を作成し、小規模な実験によってその有効性を確認した。公的文書には複合名詞や敬語が多く、これらが日本語初学者の読解を妨げていることを実験で明らかにした。今後は換言辞書を用いた

換言文の自動生成に取り組んでいきたい。

8. 参考文献

- 1 弘前大学人文学部国語学研究室『新版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/newmanual/top.html> (2005)
- 2 松田真希子.やさしい日本語への自動言い換えシステムの開発.日本語教育学会大会 2009 (平成 21) 年度春季大会予稿集, pp.91-93 (2010)
- 3 庵功雄.「やさしい日本語」をめぐって.多文化共生社会における日本語教育研究会第 4 回研究会 (2008)
- 4 筒井千絵.試用版書き換えコーパスの作成.日本語教育学会大会 2009 (平成 21) 年度春季大会予稿集, pp.86-87 (2010)

9. 使用した言語資源およびツール

- ・形態素解析器 ChaSen, Ver.2.3.3,
奈良先端科学技術大学院大学松本研究室,
<http://chasen.naist.jp/hiki/ChaSen/>,

技術者倫理教材作成の経験から

長岡技術科学大学技術経営研究科 教授 三上喜貴

1. はじめに—UD, TP, FD

本学は、平成20年度から3年間、「UDに立脚した工学基礎教育の再構築」と題するGP事業に取り組んできた[1]。UDとはユニバーサルデザインであり、この事業名の言わんとするところは、日本語能力、学習履歴、関心など、あらゆる点で多様化する学生に対して、カスタマイズした多数のプログラムを用意して対応するのではなく、ユニバーサルなアプローチによって工学基礎教育を改革しよう、というものであった。そして、この事業を着想した直接の契機は、本学が意欲的に進めてきたツイニング・プログラムであり、ベトナムで行ったツイニング学生への出張講義に同席した日本人学生が思わず漏らした一言、「この授業なら僕もわかりました」という感想に端を発している。日本語の運用能力が十分でない段階のツイニング学生に対する出張講義は教員にとって絶好のファカルティ・デベロップメントの「道場」であり、留学生にも理解し易い教材と教育プログラムの開発は、日本人学生に対する教材と教育プログラムの改善に通じる、というのが、このプログラムの根本認識である。我々は、このプログラムのキーワードを、ユニバーサルデザインのUD、ツイニングプログラムのTP、ファカルティデベロップメントのFDという三つの単語に要約している。

2. 名古屋大学の試みからの啓発

本事業の対象とする教育領域は工学基礎教育にあった。しかし、事業を始めて一年余り、足元を見つめてみたら、自分の担当している科目「技術者倫理」にもユニバーサルデザインを導入する余地があると気がついた。気づかせてくれたのは、名古屋大学日本法教育研究センターの取り組みである。同センターは、「体制移行国」といわれる国々の法学生を受け入れている。異なる社会体制の国から来た学生に日本社会の仕組みを教えるため、センターでは、二年生用として「日本法を学ぶための日本史・公民」を、3年生用として「日本の法システム」という教材を作っている。教材の中には日本語練習が組み込まれていて、「専門を通じて日本語を学ぶ」教材ともなっている。この話を聞いて、「技術者倫理もこれに学ばねば」と思った。こうして、技術者倫理の副読本「歴史と人物に学ぶ技術者の責任」[2]の作成に着手した。



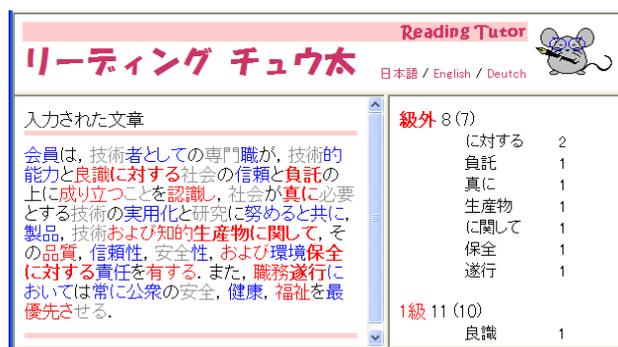
3. 事件や人物の行動に語ってもらう

工学には数式というユニバーサルな表現手段があるが、倫理や法律を語る言葉にはそのような表現手段がないように思われている。しかし、自然法則が、どの国、どの時代でも一様であるように、人間社会の根本にある倫理思想も本来ユニバーサルなものを多く含むに違いない。概念を表す

語彙そのものは難しくとも、具体的な事件や人物の行動自身に物語ってもらえば、概念はユニバーサルに伝わるはずである。従って、第一の目標は、分かり易い具体的な事例と人物を歴史の中から集めることであった。技術者倫理の副読本「歴史と人物に学ぶ・・・」はその意気込みをこめたものだ。本冊子には 3000 年以上も前のバビロニアの王から、フランス革命前夜の思想家、産業革命期のイギリスのエンジニアなど、多くの国と時代の人物が登場する。

3. 日本語 2 級読者を目標に推敲を繰り返す

第二に、日本語の語彙と漢字の制限である。本事業では PLAIN JAPANESE への書き換えを手助けするツールの開発という難しい課題にも挑戦しているが、今すぐに使えるツールではない。そこで、東京国際大学の川村よし子先生が開発・提供している「リーディング・チュータ」[3]を活用した。このシステムに日本語テキスト



を入力すると、漢字や語彙の難易度を 2 級、1 級、級外と色分けして示してくれる。日本語能力試験 2 級までの語彙と漢字で書くことを目標とし、作文してはチェックして、目標を超える語彙と漢字が見つければ易しく書き直すという作業を繰り返した。自分の文章を「難易度判定という鏡」に映して推敲を行うので、私は、「シャドウボクシング」と名付けた。私は、自分が普段如何に無用に難しい言葉を使っているかに気づいた。次の表は、最終原稿に含まれる級別の漢字、ひらがな、カタカナ、数字、英字、記号の総字数と構成比である。

	総文字数	漢字総数	級外漢字	1 級漢字	2 級漢字	3 級漢字	4 級漢字
重複を含む字数	18314	6217	30	503	2740	1760	1184
比率 (漢字=100)	294.58%	100.00%	0.48%	8.09%	44.07%	28.31%	19.04%
比率 (総数=100)	100.00%	33.95%	0.16%	2.75%	14.96%	9.61%	6.46%

	ひらがな	カタカナ	数字	英字	記号	その他
重複を含む字数	8123	952	542	504	1460	516
比率 (漢字=100)	130.66%	15.31%	8.72%	8.11%	23.48%	8.30%
比率 (総数=100)	44.35%	5.20%	2.96%	2.75%	7.97%	2.82%

4. まだまだ課題が

こうして一ヶ月余りの「シャドウボクシング」の末にやっと第一版ができ、平成 22 年一学期の授業で使ってみた。まだ UD と言うには程遠く、学期末に、ベトナム、メキシコなど、主としてツイニングプログラム留学生に意味の分からなかった単語や読めなかった漢字を赤ペンでマークしてもらったところ、1 頁あたり 5～10 ヶ所に赤ペンが入った。これを資料 2 に示す。資料 1 と資料 2 を比較すると分かるように、級外、1 級の語彙や漢

字は留学生が読めないと指摘した文字と概ね一致するが一致しないケースもある。今後、今回得た留学生のフィードバック情報を下にこの科目における必要語彙の絞込みを進めたい。

資料1 「歴史と人物に学ぶ技術者の責任」の第1話の冒頭

第1話 ハンムラビ王の法律

【バビロニアという国】

4000年以上も昔のこと、今のイラクのあたりに、バビロニアという国がありました。首都バビロンはすばらしい都市であったと考えられています。この国には、都市を計画し、巨大な建物を設計する技術者がいたようです。「バベルの塔」という神話があります。この国のある王が巨大な建物を建てようとしたことに神が怒り、工事を中止させたという物語です。このような神話が生まれたのは、高い建物を建てることのできる優れた技術があったことを物語っています。

【ハンムラビ王の法律にみる技術者の責任】

この国を支配したハンムラビという王[1]の決めた法律が、石の柱に刻まれていました。この法律は、大工の責任について次のように述べています。

- 自分の技術が十分でなかったために家がこわれ、家の主人を死なせてしまったときには、その家を建てた大工を死刑とする（第229条）
- 家がこわれて主の息子が死んだときには大工の息子を死刑とすること（第230条）
- 家がこわれて主の財産がこわれたときには大工はそれを償う[2]こと（第232条）

【専門家は、より重い責任を持つ】

この法律は282条からなり、医師などの責任についても述べていますが、専門家としての仕事の失敗を死によって償うことが求められたのは大工だけでした。なぜでしょう。

私は、当時の医師の技術水準に比べて、建築技術の水準が高かったためであると考えます。実現したいことを、どこまでそのとおりに実現できるかを技術水準と考えると、当時の医師の技術水準はそれほど高くなかったと想像されます。専門家は一般の人よりも高い注意力を求められ、失敗したときには、結果責任が問われ、制裁[3]が行われました。古代の人たちの感情の中にも、特別な能力を持つ専門家は、そのような能力を持たない一般の人に比べてより重い責任を持つ、という考えがあったのです。筆者は、この点に、技術者の責任を考えるときの出発点があるように思います。



バビロンの想像図

[1] 紀元前18世紀のバビロニアの王



ハンムラビ王の法律を記録した石柱。今はルーブル美術館にある。

[2] 相手に与えた損害を埋め合わせること

[3] 法律や倫理に反する行動に罰を与えること

注：濃い灰色の網掛けは級外語彙、薄い灰色の網掛けは1級語彙、□は1級漢字

第1部 技術者の責任

第1話 ハムラビ王の法律

バビロニア王国

4000年以上も昔のこと、今のイラクのあたりに、バビロニアという国がありました。首都バビロンの遺跡から、それがすばらしい都市であったことがわかります。この国には、都市を計画し、巨大な建物を設計する技術者がいたようです。「バベルの塔」という神話があります。この国のある王が、天までとどく塔を建てようとしたことに神が怒り、工事を中止させたという物語です。このような神話が生まれたのは、高い塔を建てることのできる優れた技術があったことを物語っています。

ハンムラビ王の法律にみる技術者の責任

この国を支配したハンムラビ王（紀元前18世紀の王）の法律は、大工の責任について次のように述べています。

- ・ 大工の技術が十分でなかったために家がこわれ、家の持ち主を死なせた時には、その家を建てた大工を死刑とする（第229条^[1]）
- ・ 家がこわれて持ち主の息子が死んだ時には、大工の息子を死刑とすること（第230条）
- ・ 家がこわれて持ち主の財産がこわれた時には、大工はそれを償う^[2]こと（第232条）

専門家は、より重い責任を持つ

この法律は282条からなり、医師などの責任についても述べていますが、専門家としての仕事の失敗を、死によって償うことが求められたのは大工だけでした。なぜでしょう。

筆者は、当時の医師などの技術水準に比べて、建築の技術水準が高かったからだと考えます。実現したいことを、どこまでそのとおりに実現できか技術水準と考えると、当時の医師の技術水準はそれほど高くありませんでした。

より優れた能力を持つ者は、より高い注意力を求められ、失敗した時



首都バビロンの想像図。



ハンムラビ王の法律を記録した石柱、ルーブル美術館。

[1] 条（条文）：法律を構成する単位となる文。

[2] 償う：自分の身体、財産を与えることにより、他人に与えた損害を相殺する（埋め合わせる）こと。

参考文献等

- [1] 長岡技術科学大学のUD事業ホームページ、<http://twinning.nagaokaut.ac.jp/ud/>
- [2] 三上喜貴「歴史と人物に学ぶ技術者の責任」、2010年3月、内部印刷
- [3] 日本語読解学習支援システム「リーディング チュータ」、<http://language.tiu.ac.jp/>

本年度の研究成果

論文

- ・庵 功雄(2011)「日本語教育文法から見た「やさしい日本語」の構想」『語学教育研究論叢』28、pp.255-271、大東文化大学.
- ・庵 功雄・岩田一成・森 篤嗣(2011)「「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換えー多文化共生と日本語教育文法の接点を求めてー」『人文・自然研究』5、pp.115-139、一橋大学.
- ・庵 功雄・岩田一成・筒井千絵・森 篤嗣・松田真希子(2010)「「やさしい日本語」を用いたユニバーサルコミュニケーション実現のための予備的考察」『一橋大学国際教育センター紀要』創刊号(通巻13号)、pp.31-46、一橋大学.
- ・岩田一成(2010)「言語サービスにおける英語志向ー生活のための日本語：全国調査」結果と広島の事例からー」『社会言語科学』13-1、pp.81-94、社会言語科学会
- ・川村よし子(2010)「多言語版「チュウ太の web 辞書」を用いた語彙学習」『ヨーロッパ日本語教育』14、pp. 249-256.
- ・森 篤嗣(2011)「職種別に見た滞日年数と言語能力の相関：日本語能力自己評価と言語行動可能項目数を指標として」『社会言語科学』13(2)、社会言語科学会.

口頭発表

- ・庵 功雄・岩田一成・筒井千絵・森 篤嗣・松田真希子(2010)「日日ほんやくコンニャクプロジェクトー「やさしい日本語」を用いたユニバーサルコミュニケーションを目指してー」2010年度日本語教育学会春季大会、早稲田大学.
- ・岩田一成・森 篤嗣(2010)「初級を軽くするー使役に関する考察ー」2010年世界日本語教育大会、台湾国立政治大学.
- ・川村よし子(2010)「国際共同編集による介護専門辞書を組み入れた読解支援システム」2010年度世界日本語教育大会、台湾国立政治大学.
- ・北村達也・川村よし子(2010)「日本語の教科書で使用される単語の逆文献頻度の分析」2010年度世界日本語教育大会、台湾国立政治大学.

教材

- ・庵 功雄監修(2010)『にほんごこれだけ！1』ココ出版.

研究代表者、分担者一覧

庵 功雄（研究代表者）一橋大学
岩田一成（研究分担者）広島市立大学
宇佐美洋（研究分担者）国立国語研究所
尾崎明人（研究分担者）名古屋外国語大学
金田智子（研究分担者）学習院大学
川村よし子（研究分担者）東京国際大学
福村好美（研究分担者）長岡技術科学大学
松田真希子（研究分担者）金沢大学
三上喜貴（研究分担者）長岡技術科学大学
森 篤嗣（研究分担者）国立国語研究所
山本和英（研究分担者）長岡技術科学大学
湯川高志（研究分担者）長岡技術科学大学

児玉茂昭（研究協力者）長岡技術科学大学

柰真奈見（専門的知識の提供）長岡技術科学大学学部生

阿保きみ枝（事務担当）一橋大学大学院生
増田麻美子（事務担当）一橋大学大学院生